

# 茨城県高等学校将棋 30年のあゆみ



茨城県高等学校文化連盟将棋部会



難局ハ

以嚴  
シキ

因心師ナリ

九あ二上達也





第8回関東大会出場選手  
(H9.12.21 浦和市民会館)



第9回関東大会決勝戦  
(H10.12.20 水戸市民会館)



第9回関東大会でのプロ棋士指導対局  
(H10.12.20 水戸市民会館)

H9 11/26

高松

高松

高松

**高校 竜王戦**

## 前島君が2連覇

「全国でも全力尽くす」

第十回全国高校将棋竜王戦(読売新聞社、日本将棋連盟主催)の県大会が十日、会に県代表として出場す水戸市の県民文化センター分館で開かれ、友部東賢(中級)に六十三人と、県立第一養科大学(初級)の内十七校から合計二十五人が参加した。

大会2連覇を果たした前島君は、一年生ながら強豪を破り勝ち進んだ野沢和人君(水戸市)が対局。先手の前島君は序盤、四角の定跡で固め、自分のペースに持ち込める全国大会でも全力を尽くしたいと話している。

A級の内十七校から合計二十五人が参加した。

前島君は昨年、「全国総文祭」から今年の「高校竜王戦」を含めて県内の主だった大会五連覇中。実力はアマ四段。今は将棋を描いている時が一番充実しています。全国大会でも全力を尽くしたいと話している。

A級トーナメント結果(準々決勝、敬称略)

前島拓介(友部東賢講師学校) 1勝  
桑田健二(太田) 1勝  
黒井健宏(土浦) 1勝  
野沢和人(水戸) 1勝  
野沢和人(水戸) 1勝  
野沢和人(水戸) 1勝

は四角飛車で対抗、終盤一歩遅いまで持ち込んだが、前島君の序盤の組み立てに一日の長があった。

前島君は昨年、「全国総文祭」から今年の「高校竜王戦」を含めて県内の主だった大会五連覇中。実力はアマ四段。今は将棋を描いている時が一番充実しています。全国大会でも全力を尽くしたいと話している。

茨城県高校竜王戦2連覇の前島君  
(H9.6.10 県民文化センター分館)



第9回関東大会対局風景  
(H10.12.20 水戸市民会館)



H11秋季大会 和室での対局風景  
(H11.11.12 石岡市民会館)



H11秋季大会女子優勝佐川さん  
(H11.11.12 石岡市民会館)



H11秋季大会対局風景 (左: 天貝氏)  
(H11.11.12 石岡市民会館)



H12春季大会対局風景  
(H12.5.10 水戸一高)



H12春季大会女子個人優勝泉對さん  
(H12.5.10 水戸一高)



H12秋季大会対局風景  
(H12.11.6 石岡市民会館)



H13春季大会対局風景  
(H13.5.9 水戸一高)



H14春季大会対局風景  
(H14.5.11 水戸一高)



H14春季大会男子団体A決勝戦  
(H14.5.11 水戸一高)

**高校  
竜王戦**  
限大会

第十四回全国高校将棋選手権大会。王戦。読売新聞社、日本将棋連盟主催の大会。8日、水戸市で読者の県民文化センターで開催され、高松市立福徳大宮町、八雲の福岡、高松の小野瀬、志志が初優勝を飾った。小野瀬は、高松市立福徳大宮町、二十四日、福岡、大宮町、取の角行で手、玉の優位の第一経済大学都築尚典記位を確保し、押し切った。今大会は、県内十五校、対二人に勝つことで、東からA級に三十一人、B級に三十八人、C級に二十五位に食い込みたいと力

**小野瀬君(緑岡)が初優勝**  
8月の全国大会出場へ

人の計九十九人が参加、女の優勝を逃して来た。予選一人の参加となった。十浦二高、二年の対局、千五、八、十六が四強に進出し、大会を盛り上げた。



初優勝を飾った小野瀬君

A級決勝は、ともに初優勝を狙う小野瀬君と津田一高、一年の高松功吾、志志が初優勝を飾った。小野瀬は、高松市立福徳大宮町、二十四日、福岡、大宮町、取の角行で手、玉の優位の第一経済大学都築尚典記位を確保し、押し切った。今大会は、県内十五校、対二人に勝つことで、東からA級に三十一人、B級に三十八人、C級に二十五位に食い込みたいと力

【準決勝】  
小野瀬一高(敬略)  
高橋一山  
【決勝】  
小野瀬一高(敬略)  
光宏(茨城)  
三村裕(水戸)  
戸一、南島宗(赤松)  
【A級】  
千田博(赤松)  
二浦(赤松)  
【B級】  
阿部(赤松)  
阿部(赤松)  
【C級】  
加藤大輔(高松)  
藤田(高松)  
【D級】  
藤田(高松)

H13竜王戦優勝小野瀬君  
(H13.6.8 県民文化センター分館)



H14全国高文祭将棋部門開会式  
(H14.8.8 かながわ労働プラザ)



H15春季大会男子団体A優勝江戸川学園取手高校  
(H15.5.11 水戸一高)



H15竜王戦優勝佐藤君  
(H15.6.7 県民文化センター分館)



H15秋季大会対局風景  
(H15.11.10 石岡市民会館)



H16春季大会開会式  
(H16.5.9 水戸一高)



H16竜王戦第3位熊倉さん  
(H16.6.7 県民文化センター分館)



H16全国高校竜王戦開会式で選手宣誓をする勝又君  
(H16.8.18 第一経済大体育館)

# 目 次

あ い さ つ	1
記念随筆・日本将棋連盟前会長 二上 達也	3
祝 辞	4
栄光の記録	9
平成7年から16年の記録	16
平成7年から16年の栄光の選手	56
平成7年以後10年間の精選棋譜	59
茨城県高等学校将棋連盟・茨城県高等学校文化連盟将棋部会 30年のあゆみ	71
規約及び会則	79
茨城県高等学校文化連盟将棋部会規約	81
関東地区高等学校文化連盟将棋部会則	83
全国高等学校文化連盟将棋部会会則	86
編 集 後 記	92



## 「三十年のあゆみ」発刊によせて

茨城県高等学校文化連盟将棋部会長 松崎 武久

(茨城県立日立第一高等学校長)

時はまさに教育改革が激しく進行中であります。この改革は「茨高将連20年の歩み」発刊以後の平成8年の中教審「第1次答申」による提言以来益々スピードを増しておりますが、茨城県高等学校文化連盟将棋部会とは申しますと編集長の植田泰史先生を中心に何事もなかったかのように極めてさり気なく、淡々と「茨城県高等学校将棋30年のあゆみ」を編纂してしまっただけのような気がします。

このことは、「茨高将連20年の歩み」発刊時の本連盟結成前後の揺籃期の曲折等を含めた資料等の発掘及び財源捻出のご苦勞を体験された方々が中心になり、先を十分に見通し、仲良くまとまりのある運営をされてきたことによると思われれます。また、各係りの仕事を平然と冷静にこなしている顧問の方々を見ていると将棋界だけでは、改革には無縁であり、穏やかで静寂だなーと思わざるを得ませんでした。

しかし、ある新聞には、日本将棋連盟は国際化が進んでいて、上海の愛好家は10万人を突破した。世界の将棋の中でベストゲームは、日本将棋である。それは、取った相手の駒を自分の駒として再び使える「持ち駒使用」のルールが奥深いゲームにしているからであり、更に、未だコンピューター征服されていないゲームでもあるからである。将棋界の第一人者、羽生善治は、日本将棋という古来からの「ゲームソフト」が世界市場を獲得する大きな可能性もあると読んでいるように見えたということが書かれてありました。

つまり、日本将棋は国際化・情報化社会といわれる21世紀社会にすでに対応していたことになる訳です。こうなると話は大きく違って参ります。この小誌が本連盟の発展・充実に寄与することは勿論、言葉が通じなくても盤上でコミュニケーションができるという利点を活かし、国際社会における文化交流に少しでも貢献できますことを心より祈念いたしております。

末尾ではありますが、玉稿を賜りました学兄諸氏をはじめ関係各位に感謝の念を捧げますと共に、本誌発刊のためにご協力を賜りました皆様方に深甚なる謝意を表する次第でございます。





## 将棋部会30周年を祝して

茨城県高等学校文化連盟会長 梶木 敏 男  
(茨城県立大宮高等学校長)

将棋部会設立30周年おめでとうございます。

将棋部会は、昭和62年6月に茨城県高等学校文化連盟が結成されるにあたって、発足当初から加盟されたもっと組織の強固な、茨城県高文連がたよりにしている部門です。

茨城県高等学校将棋連盟は、昭和48年に設置された必修クラブがきっかけとなり、各校に同好会や部が設立されたのを機に、昭和50年11月に設立されたと伺っております。以後、全国高等学校将棋選手権大会へ代表を派遣する茨城県代表決定戦の企画運営にあたられ、また各種の代表決定戦や生徒研修会の設営など本県高校将棋界のまとめ役として活動をつづけられました。ここに30年の歴史を綴られたことは素晴らしいことであると感服いたしております。これまで県代表は、昭和52年の第13回大会で結城二高が女子団体が優勝、同60年の第21回大会で土浦一高が男子団体が準優勝するなど活躍し、本県高校将棋界の実力を全国に示されました。生徒諸君の奮闘と顧問の先生方のご努力に心から敬意を表したいとおもいます。

全国高等学校将棋選手権大会は、平成7年から全国高等学校総合文化祭の将棋大会が兼ねることとなりました。そこで、茨高文連も将棋部会と連携して代表派遣にかかわらせていただけるようになり、何度か応援に行かせていただきました。全国の強豪に伍して活躍する茨城県勢を見るとき、その姿に本県高校生のたくましさや文化レベルの高さを感じたのは私ひとりではないとおもいます。

茨城県高等学校文化連盟へのご協力に心から感謝もうしあげるとともに、将棋部会の今後のますますのご発展をお祈りし、お祝いの言葉といたします。



## 将棋部創設三十周年に寄せる

日本将棋連盟前会長・相談役 二上 達也

継続は力なりという言葉があります。確かに物事は続けて行うことにより一つの成果を生むことができます。

そこには、好きだから続けられる意味と、だからこそ努力できるわけでもあります。

将棋は単純に考えれば勝負事であり、勝負に興味を持つのは人間の性（さが）であると言っていていいでしょう。

しかし、将棋に単なる趣味娯楽を乗り越えたものがあることは間違いのないと思います。

特に日本将棋の場合、ルールの成立からプロ制度の確立など、日本人独自の世界を形成し、既に日本古来の伝統文化であると言えます。例えば相手の駒を取って使える再使用のルールなど、日本人だけが持つ精神世界からの発現だと考えます。

さて将棋に限らず趣味と言うものは、人と人を結びつける接着剤のような働きを持っています。いわゆる同好の士と言うのでしょうか、お互い特に強制するわけでもなく、連帯感が発生します。

私自身それが高じて職業にまでなってしまったわけですが、今日いかにして多くの方々とのお触れ合いがあり、しかもそうした人々に支えられて来たことを感じます。

ただ勝負事ですから矢張り勝った負けたに気持ちが向くわけで、そこに勝っておごらず、負けて悪びれずの精神状態を保つことが大事になります。

将棋を生涯の友として、有意義なものであらんことを祈ります。



## 祝 辞

日本将棋連盟茨城支部連合会 名誉会長 川 嶋 長一郎

茨城県高等学校将棋連盟発足30周年誠に御目出度うございます。一口に30年と申しましても一つの事業を長年続けて維持し、さらに発展させていくことは、並大抵のご苦勞ではないと思います。藤崎教諭始め関係各位のご尽力に感謝の意を表する次第であります。思えば昭和51年天貝茂樹土浦一高教諭（当時）がアマ将棋界の発展を展望し若人を育成して参りたいという趣旨から発足した茨城高等学校将棋連盟であり、現在は病の床に就いている先生もさぞかし喜んでいることと思います。

このように、高校生始め多くの人々を魅了してしまう将棋ですが、いつ頃から日本に渡ってきたのでしょうか。確かな事は定かではありませんが、古代エジプト、メソポタミア、インド、中国を渡って日本へ伝来したと一般的には伝えられております。日本に渡った将棋は、どのようにして庶民に広まっていったのでしょうか。日本で将棋を指したという最古の記録は、永享7年（1435年8月22日）將軍足利義持が関白二条持基と将棋を指したと記録に残っています。これに前後して庶民が将棋を楽しむようになっていき、一般に広まっていったのが安土桃山時代といわれています。将棋のルールは簡単ですから、しだいに流行して国民的娯楽となってきたと思われます。その後、御城将棋が幕府の年中行事となって毎年11月17日に将棋御三家の者が江戸城御里院で将棋を披露したと伝えられており、現在も将棋の日としてNHKで放映を始めとして、各地でイベントが行われております。プロのタイトルは、名人・竜王・棋聖・王位・王座・棋王・王将の七大タイトルがあり、他にNHK杯戦、新人王戦、JT将棋日本シリーズ戦、朝日オープン戦、銀河戦、早指し戦、オールスター勝ち抜き戦、達人戦、女流プロの各タイトル戦等数多くありますが、そのうち七大タイトルをタイトル保持者と称しております。

なかでも、名人位は一世名人大橋宗桂慶長17年襲位以来現代森内俊之名人まで紆余曲折はあっても継続しています。昭和10年には、これまでの名人一代制を廃止し実力名人制を断行するに至りました。そのうち大正10年に龍位した十三世名人関根金治郎は現代将棋界の基礎を造った人であり、坂田三吉との宿命の対局は映画、芝居等で有名です。十三世関根名人以後は、十四世名人木村義雄8期、十五世名人大山康晴18期、十六世名人中原誠15期、十七世名人谷川浩司5期まで続いています。通算5期名人位を獲得した者は、永世名人の

称号が与えられることになっており、中原十六世名人、谷川十七世名人は現役引退後に龍位が決まっております。これまでに、名人位を獲得した棋士は、羽生善治名人4期、故塚田正夫名人2期、故升田幸三名人2期、佐藤康光名人2期、丸山忠久名人2期、加藤一二三名人1期、米長邦雄名人1期、森内俊之現名人2期の順で続いており、十八世名人に王手を掛けている羽生があと1期で永世名人の称号が与えられることになっております。

さて、私共日本将棋連盟茨城支部連合会は、昭和50年、当時の県将棋界をリードしていた平石晴一県南支部長の提唱により、全国に先駆けて全国4番目の連合会として発足し、現在は全国で30県の連合会となっています。ちなみに、平成15年度の全国の支部は719支部、会員数は20457名（個人会員は除く）、茨城県支部は22支部、610名で、全国8位の会員数になっております。全国一の支部は山形県天童支部の272名、茨城県では常南支部の134名が全国8位の実績です。このように長い歴史と伝統の中で日本の国技として子供からお年寄りまで大衆に親しまれてきたことは将棋というものの中に吾々遠く祖父の代から受け継いできた精神が盛り入れられているからだと思えます。この伝統ある将棋を通じて茨城高等学校将棋連盟皆さんの将棋は小中学生の憧れであり、手本であり登竜門です。皆さんの活躍は後輩達に勇気と希望を与え、やる気を起こさせていくことでしょう。

これまでの、高等学校のA級個人戦優勝者の活躍は茨城県連合会主催の将棋大会においても県トップクラスの大活躍をされています。昭和51年優勝の小川明久元県アマ名人・竜王を筆頭に、藤崎正輝、鬼沢昌一、石塚努、田口拓也、磯貝真一、前嶋祐介、佐々木浩、小野瀬走の方々、竹下めぐみ、泉對直子、貴子姉妹の女性の方々。他多数の方々の活躍は吾々県連合会におきまして貴重な人材であり今後の活躍を大いに期待しております。今後県連合会と高等学校将棋連盟は、お互い連絡を密にして優秀な人材の発掘育成に努め将棋という文化活動を積極的に進行し地域社会の発展に手を携えて寄与して参りたいと思えます。最後にこれまでの運営と実績に感謝申し上げますと共に益々のご発展を祈念し茨城県高等学校将棋連盟30周年記念のご挨拶とさせていただきます。



## 将棋部会30周年記念に寄せる思い出

元会長 矢 須 恵 由

この度、県高等学校文化連盟将棋部会にあっては、「30周年記念誌」を発刊されるという。かつて、いささか関係した一員として誠に喜ばしく、心からお慶び申し上げます。

同時に、関係者一同の日頃の並々ならぬ努力に心から敬意を表したい。

先に「茨高将連20年のあゆみ」が刊行されて10年が関した。月日が経つのは早い。時の会長は、高梨保彦太田一高校長で、私も誘われて茨高将連に関係するようになり、その「あゆみ」刊行の折、「今後の課題と展望」を書く羽目になったことを思い出す。

さて、「茨高将連」の思い出は、何と言っても緑岡高の団体優勝である。必修クラブの1クラブとして設置された関係から、私も顧問になっていた。私にとって緑岡高勤務最後の年に当たり、記念すべきものになった。

次いでは、私は水戸桜ノ牧高に移ったが、第1回生として入学して来た田口拓也君が個人戦において優勝したことである。新設1年目の学校にとっては正に驚きの快挙で、全国大会、東京晴海に引率した思い出がある。その田口君は、個人戦で大会史上初の3連覇を達成したのだから、更に驚きであった。田口君出場2年目の全国大会は兵庫県明石であった。その時も私が引率教師であった。そして、谷川浩司元名人の「飛翔」と揮毫した色紙を頂くことが出来た。これもひとえに田口君のお蔭であった。

三つ目の思い出は、茨高将連が主管で関東大会を水戸市民会館で開催したことである。高梨会長の後、部会長を仰せつかった。何も分からない私であったが、役員並びに多くの先生方に支えられて大会も無事終了出来たことである。

今も将棋には興味があり、新聞掲載の詰め将棋を楽しんだりしている。

明け易し遂に解けたる詰め将棋 恵由

最後に、関係する皆様の御健勝と茨高将連の今後益々の御発展を祈念いたします。



## 高将連の思い出

元会長 秋山和衛

茨城県高等学校文化連盟将棋部設立30周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

私が会長になりましたのは太田一高に在職した平成12～13年度の2年間でした。その間、事務局の先生方の献身的な協力によりスムーズな大会運営ができましたことに深く感謝申し上げます。特に、平成13年度は全国将棋部長という大役を引き受け、福岡県での全国総文祭や大阪府での全国新人大会等多くの大会を見させていただきました。高校生の熱い戦いとプロ棋士の熱心な指導があり、大会には女子の参加も年々増え、本県でも泉對直子(当時土浦一高)さんが全国2位になるなど大活躍をしたことが思い出されます。また、このような棋士達の活躍を讃えようと全国将棋部会の会議で女子にも優勝旗を出すことや部長職、事務局の持ち回りを決めるなど、事務局長の青木睦人先生(当時緑岡高)に大変世話になりました。

囲碁や将棋は知的スポーツと言われますが、なかなかの体力(集中力、先見力、大局観、決断力)勝負と痛感させられました。特に将棋は一駒一駒の動きが制約されたなかでの勝負であり、棋士独自の駒扱いで局面が大きく変わり、「歩のない将棋は負け将棋」と言われるように、駒一つ一つの大切さをひしひしと感じさせられ、駒組が飽和点に達してきて中盤の激闘が眼前に迫ってくると残り時間と精神力の戦いとなります。このような戦いのなかから普段の授業では得られない大切な資質が育っていくのだと思いました。

最後になりましたが、茨城県高文連将棋部が30周年を節目に一段と充実・発展することを祈念するとともに、大会運営等でお骨折りいただいた先生方に感謝し、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

前会長 森 山 勝 一

遠く奈良時代から存在する将棋の伝統は連綿と続き、今日も多くの人々を魅了しています。高校生の間でも将棋を愛好する者は少なくなく、文化部活動の一分野として確乎たる位置を占めています。本県高文連将棋部会の30年という歴史が、その根強い人気を十分に証明していると考えます。

その30年の歴史のほんの一部ではありますが、私自身将棋部会と係わりを持つことができましたことを幸いに思っています。それは将棋というものに疎かった私に、多くのことを学ばせてくれたからであり、直接に高校生の棋士たちの熱い息遣いにふれることができたからであります。

将棋は知的ゲームであり、一人対一人の戦いは、己のみの力量による真剣勝負、知的格闘技であると思います。戦いは孤独であり、その孤独に耐えるが故に、知力も精神力も強靱になり、次の一手のために盤上を見つめ、相手の心を推し量る冷静な胆力も醸成されるのであります。高校生という心身ともにしなやかな時代に、将棋に取り組み、集中し、格闘したことは、貴重な体験で、将来専門家の道を進むにしろ、他の方向を歩むにしろ、その前途をしっかりと支える力になるに違いないと思います。

本部会30年の歴史は、そのような若者たちを長期にわたり、社会に送り出し続けてきたという自負をもってもいいのではないかと考えます。勝負をしている時の生徒たちの凛としたすがすがしく輝く瞳を濁すことなく、将棋部会は更なる前進を続けてほしいと思います。

なお、秋山前会長の残任期間1年という短い間ではありましたが、私のような者が本県将棋部会長、全国高文連将棋専門部会会長を恙なく勤めることができましたのも、本県将棋部会の関係者の皆様の、ご支援ご協力の賜でありましたことを、心より感謝申し上げます。

# 栄光の記録

平成7年から16年の記録

この10年間の栄光の選手



## 全国高等学校将棋選手権大会茨城県代表記録（春季大会） 男子

回	年度	会場	団体戦		個人戦						備考
			優勝	準優勝	A級優勝者	出身高校	学年	A級準優勝者	出身高校	学年	
12	51	東京	水戸一	日立一	小川 明久	上浦一	1	寒河江和男	大子一		
13	52	東京	土浦一	水戸一	鈴木 裕行	古河三		小林 誠	下館一	1	
14	53	東京	土浦一	古河三	藤崎 正輝	茨 城	1	深谷 哲郎	緑 岡	2	
15	54	東京	日立商	竜ヶ崎一	田上 和久	土浦一		小林 誠	下館一	3	
16	55	東京	竜ヶ崎一	日立商	鬼沢 昌一	水 城	3	西野 和志	日立商	3	
17	56	東京	竜ヶ崎一	日立一	石川 歩	江戸川取手	3	久米 主税	日立一	3	
18	57	東京	緑 岡	土浦一	石塚 努	竜ヶ崎一		岡野 夏樹	土浦一		
19	58	東京	竜ヶ崎一	日立一	田口 拓也	水戸桜ノ牧	1	石川 一茂	土浦一		
20	59	東京	土浦一	緑 岡	田口 拓也	水戸桜ノ牧	2	栗林 聡	竜ヶ崎一	3	団体土浦全国3位
21	60	東京	緑 岡	土浦一	田口 拓也	水戸桜ノ牧	3	福島 諭	古河三		団体土浦全国準優勝
22	61	東京	土浦日大	竜ヶ崎一	中根 一男	常総学院		石塚 晃彦	土浦日大		
23	62	東京	土浦日大	水戸一	勝山 良平	水戸一	1	小島 雅志	古河三		
24	63	東京	水戸一	水戸桜ノ牧	小関 靖治	境		大岡 稔	水戸桜ノ牧		
25	元	東京	水戸一	水 城	菅原 伸也	緑 岡		小机 弘泰	竜ヶ崎一		
26	2	東京	土浦日大	水 城	篠田 哲也	土浦一	3	井上 耕史	古河三	3	
27	3	静岡	水戸一	土浦日大	江面 祐一	北海道一	3	和久井仁彦	緑 岡	2	
28	4	広島	太田一	霞ヶ浦	清水 俊宏	茨 城	2	五反田 洋	多 賀	1	
29	5	東京	太田一	水戸一	清水 俊宏	茨 城	3	五反田 洋	多 賀	2	
30	6	徳島	太田一	茨 城	五反田 洋	多 賀	3	磯貝 真一	茨 城	1	
31	7	新潟	太田一	水戸一	磯貝 真一	茨 城	2	丸山 裕人	日立一	3	
32	8	北海道	太田一	水戸一	前嶋 祐介	友部東	2	久保木正人	大 洗	3	
33	9	奈良	土浦一	太田一	前嶋 祐介	友部東	3	河野 圭	日立一	3	
34	10	鳥取	太田一	水戸一A	佐々木 浩	守 谷	1	野澤 和人	水戸農	2	
35	11	山形	日立一	水戸一	佐々木 浩	守 谷	2	今泉 英巳	茨 城	3	
36	12	静岡	土浦一	日立一	佐々木 浩	守 谷	3	加藤 崇	土浦一	3	
37	13	福岡	水戸一A	水戸一B	小野瀬 走	緑 岡	2	橋本 峻一	霞ヶ浦	3	
38	14	神奈川	茨 城	土浦一	小野瀬 走	緑 岡	3	金子 和弘	水戸農	3	
39	15	福井	江戸川取手	土浦一	清水 知道	茨 城	2	伏見誠一郎	茨 城	2	
40	16	徳島	江戸川取手	茨 城	田地 規朗	水城	1	大内 雅史	土浦一	2	

## 全国高等学校将棋選手権大会茨城県代表記録（春季大会） 女子

回	年度	会場	団体戦		個人戦						備考	
			優勝	準優勝	A級優勝者	出身高校	学年	A級準優勝者	出身高校	学年		
13	52	東京	結城二									団体結城二全国優勝
24	63	東京			竹下めぐみ	土浦日大		鈴木美佐子	水戸三			竹下全国優勝
33	9	奈良			森嶋 純子	水戸一	2					
35	11	山形			栗原真由子	水戸一	3					
36	12	静岡			泉對 直子	土浦一	1					
37	13	福岡			泉對 直子	土浦一	2					全国準優勝
38	14	神奈川			泉對 直子	土浦一	3					
39	15	福井	水戸一		泉對 貴子	江戸川取手	1	荒張 博子	銚田一	3		
40	16	徳島			泉對 貴子	江戸川取手	2	美馬 香織	土浦日大	1		

## 歴代茨城県高校竜王（夏季大会）

回	年度	A級優勝者	出身高校	学年	A級準優勝者	出身高校	学年	備 考
1	S63	勝 山 良 平	水戸一	2	菊 川 崇 一	水戸一	1	
2	元	菊 川 崇 一	水戸一	2	松 本 亮 太	常総学院	2	
3	2	井 上 耕 司	古河三	3	篠 田 哲 也	土浦一		
4	3	徳 永 吉 宏	水戸一	1	和久井 仁 彦	緑 岡	2	
5	4	徳 永 吉 宏	水戸一	2	清 水 俊 宏	茨 城	2	準優勝徳永吉宏
6	5	清 水 俊 宏	茨 城	3	五反田 洋	多 賀	2	
7	6	五反田 洋	多 賀	3	原 田 慎 一	太田一	2	第3位五反田洋
8	7	中 島 啓	境	2	磯 貝 真 一	茨 城	2	
9	8	前 嶋 祐 介	友部東	2	久保木 正 人	大 洗	3	
10	9	前 嶋 祐 介	友部東	3	野 澤 和 人	水戸農	1	
11	10	佐々木 浩	守 谷	1	土 屋 元 計	土浦一	2	
12	11	佐々木 浩	守 谷	2	野 澤 和 人	水戸農	3	
13	12	渡 辺 茂 樹	土浦一	3	今 野 将 生	土浦一	3	
14	13	小野瀬 走	緑 岡	2	高 柳 功	鉾田一	2	泉對直子（土浦一②）総文祭女子の部全国2位により推薦
15	14	小野瀬 走	緑 岡	3	泉 對 直 子	土浦一	3	泉對直子（土浦一③）これまでの実績により推薦
16	15	佐 藤 信 彦	竜ヶ崎一	3	泉 對 貴 子	江戸川取手	1	
17	16	勝 又 優	茨 城	2	田 地 規 朗	水 城	1	

**秋季大会記録 平成3年度より県秋季大会の開催  
全国新人大会出場者（男子）**

年度	全国大会	順位	氏名	出身高校	学年	順位	氏名	出身高校	学年	全国大会結果
2										
3										
4	1回	1	清水俊宏	茨城	2					
	滋賀県									
5	2回	1	五反田洋	多賀	2	2	丸山裕人	日立一		
	埼玉県									
6	3回	1	磯貝真一	茨城	1	2	澤谷悠至	土浦日大	1	
	神奈川県									
7	4回	1	澤谷悠至	土浦日大	2	2	磯貝真一	茨城	2	
	高知県									
8	5回	1	前嶋祐介	友部東	2	2	梅原嘉郎	水戸一	2	
	長野県									
9	6回					2	土屋元計	土浦一	1	
	岩手県	3	野澤和人	水戸農	1					
10	7回	1	土屋元計	土浦一	2	2	今泉英巳	茨城	2	
	愛媛県									
11	8回	1	佐々木浩	守谷	2	2	渡辺茂樹	土浦一	2	
	愛知県									
12	9回					2	小林達朗	水戸一	2	
	大分県	3	小野瀬走	緑岡	1					
13	10回	1	小野瀬走	緑岡	2	2	金子和弘	水戸農	2	第5位小野瀬走
	大阪府									
14	11回	1	北村守	水戸一	1	2	前島崇宏	水戸一	2	
	千葉県									
15	12回	1	勝又優	茨城	1	2	清水知道	茨城	2	
	広島県									
16	13回					2	佐藤大鶴	江戸取	2	
	宮城県	3	藤原直也	江戸取	2					

秋季大会記録 平成3年度より県秋季大会の開催  
関東大会出場者 (男子)

年度	関東大会	順位	氏名	出身高校	学年	順位	氏名	出身高校	学年	関東大会結果
2	1回		高村美臣	土浦日大			門長英一	古河三		第3位桜田進介
	埼玉県		原健一	水戸一			桜田進介	水戸一		
3	2回	1	菊池達也	太田一		2	菊池貴光	太田一		第3位菊池貴光
	埼玉県	3	和久井仁彦	緑岡		3	石川 暁	土浦日大		県別対抗戦優勝
4	3回	1	清水俊宏	茨城	2	2	佐藤丈晴	霞ヶ浦	2	第3位佐藤丈晴
	茨城県	3	徳永吉宏	水戸一	2	4	益子 亘	水戸一		県別対抗戦優勝
5	4回	1	五反田 洋	多賀	2	2	丸山裕人	日立一		
	栃木県	3	原田慎一	太田一	1	4	出原洋平	日立一		
6	5回	1	磯貝真一	茨城	1	2	澤谷 悠至	土浦日大	1	
	神奈川県	3	原田慎一	太田一	2	4	中嶋 啓境	境	1	
7	6回	1	澤谷 悠至	土浦日大	2	2	磯貝真一	茨城	2	
	千葉県	3	河野 圭	日立一	1	4	中嶋 啓境	境	2	
8	7回	1	前嶋祐介	友部東	2	2	梅原嘉郎	水戸一	2	
	東京都	3	河野 圭	日立一	2	4	久保木正人	大洗	3	
9	8回	1	飯島敬康	茨城	3	2	土屋元計	土浦一	1	
	埼玉県	3	野澤和人	水戸農	1	4	桑田健二	太田一	2	
10	9回	1	土屋元計	土浦一	2	2	今泉英巳	茨城	2	
	茨城県	3	渡辺茂樹	土浦一	1	4	市川和則	霞ヶ浦	3	
11	10回	1	佐々木 浩	守谷	2	2	渡辺茂樹	土浦一	2	
	群馬県	3	加藤 崇	土浦一	2	4	今野 稔生	土浦一	2	
12	11回	1	佐々木 浩	守谷	3	2	小林達朗	水戸一	2	
	栃木県	3	小野瀬 走	緑岡	1	3	坂内英彰	土浦一	2	
13	12回	1	小野瀬 走	緑岡	2	2	金子和弘	水戸農	2	第5位小野瀬走
	神奈川県	3	佐藤信彦	竜ヶ崎一	1	4	高嶋泰夫	土浦一	2	
14	13回	1	北村 守	水戸一	1	2	前嶋崇宏	水戸一	2	
	山梨県	3	島田尚輝	水戸一	2	4	古田土英明	茨城	1	
15	14回	1	勝又 優	茨城	1	2	清水知道	茨城	2	
	千葉県	3	斉藤大貴	竜ヶ崎一	2	4	高濱慎平	茨城	1	
16	15回	1	田地規朗	水城	1	2	佐藤大輔	江戸取	2	
	東京都	3	藤原直也	江戸取	2	4	柴田裕紀	太田一	3	

**秋季大会記録 平成3年度より県秋季大会の開催  
全国新人大会出場者（女子）**

年度	全国大会	順位	氏名	出身高校	学年	順位	氏名	出身高校	学年	全国大会結果
6	3回	1	諸藤 沙矢加	太田一		2	大森 明子	日立商		
	神奈川県	3	中山 明子	太田一		4	砂道 香織	竜ヶ崎一		
7	4回	1	高橋 まりも	古河三	1					
	高知県					4	安喰 聖恵	古河三	1	
12	9回	1	泉 對直子	土浦一	1					
	大分県									
13	10回	1	泉 對直子	土浦一	2					第3位
	大阪府									
14	11回	1	萩野谷 早紀	水戸一	1	2	萩谷 友美	水戸一	1	
	千葉県	3	秋山 沙織	水戸一	1					
15	12回	1	泉 對貴子	江戸川取手	1					
	広島県									
16	13回	1	泉 對貴子	江戸川取手	2	2	美馬 香織	土浦日大	1	
	宮城県									

**秋季大会記録 平成3年度より県秋季大会の開催  
関東大会出場者（女子）**

年度	関東大会	順位	氏名	出身高校	学年	順位	氏名	出身高校	学年	関東大会結果
6	5回	1	諸藤 沙矢加	太田一		2	大森 明子	日立商		
	神奈川県	3	中山 明子	太田一		4	砂道 香織	竜ヶ崎一		
7	6回	1	高橋 まりも	古河三	1	2	中山 康子	太田一	2	関東大会参加辞退
	千葉県	3	大里 めぐみ	石岡一	2	4	安喰 聖恵	古河三	1	
8	7回	1	森嶋 純子	水戸一	1	2	高橋 まりも	古河三	2	関東大会参加辞退
	東京都	3	茂田 朋子	古河三	2	4	野内 真理子	水戸一	1	
9	8回	1	森嶋 純子	水戸一	2	2	中村 美由紀	水戸一	2	関東大会参加辞退
	埼玉県	3	野内 真理子	水戸一	2	4	杉川 由香利	水戸一	2	
11	10回	1	佐川 由起	土浦一	1					
	群馬県									
12	11回	1	泉 對直子	土浦一	1	2	松嶋 美恵	中央	2	第2位泉對直子
	栃木県	3	川澄 尚美	中央	2					
13	12回	1	泉 對直子	土浦一	2					第6位泉對直子
	神奈川県									
14	13回	1	萩野谷 早紀	水戸一	1	2	萩谷 友美	水戸一	1	
	山梨県									
15	14回	1	泉 對貴子	江戸川取手	1					優勝泉對貴子
	千葉県									
16	15回	1	泉 對貴子	江戸川取手	2	2	美馬 香織	土浦日大	1	優勝泉對貴子
	東京都									

# 平成 7 (1995) 年度

## 平成 7 年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会 長	矢 須 恵 由 (水戸南)	監 査	飯 島 良 夫 (土浦一)
副会長	笹 島 三 郎 (茨 城)	同	仲 田 米 蔵 (桜ノ牧)
同	植 田 泰 史 (太田一)		
書 記	青 木 睦 人 (緑 岡)		
同	高 野 健 二 (結城一)		
会 計	高 須 宏 直 (鉾田一)		
同	越 中 理 之 (竜崎一)		

## 平成 7 年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校 (21校)

日立一	日立商	太田一	大 洗	水戸一	緑 岡	水戸桜ノ牧
鉾田一	土浦一	石岡一	竜ヶ崎一	下妻一	古河三	境
結城一	竹 園	茨 城	水 城	土浦日大	霞ヶ浦	つくば秀英

## 春季大会

平成 7 年度春季大会は、第19回全国高等学校総合文化祭将棋部門（第31回全国高等学校将棋選手権茨城県代表決定戦）の県予選である。平成 7 年 5 月17日(火)に水戸一高知道会館で行われた。男子団体 A の参加校は 5 校、団体 B は 6 校、男子個人戦 A は14名、個人戦 B は32名、女子団体の参加校は 3 校、女子個人戦は 3 名で総勢103名の申込数であった。男子団体の優勝校太田一（原田愼一 3 年、和田幸哉 3 年、石川貴治 2 年）は大会史上初の四連覇の偉業を成し遂げた。8 月 5 日(出)～ 6 日(日)に新潟県分水町で行われる全国大会には、太田一（男子団体優勝）、太田一（女子団体優勝）、男子個人戦優勝磯貝真一（茨城 2 年）及び女子個人戦には 4 名がそれぞれ出場権を得た。

男子	団体戦 A	団体戦 B	団体戦 C (敗者戦)
優勝	太田一	水戸一 B	境 A
2 位	水戸一	下妻一	土日大 A
3 位	日立一	霞ヶ浦	
3 位	竜崎一	水戸一	

女子	団体戦
優勝	太田一
2 位	石岡一

男子	個人戦 A 級	個人戦 B 級	女子個人戦
優勝	磯貝 真一 (茨 城)	藤田 幸夫 (霞ヶ浦)	木村 優子 (石岡一)
2 位	丸山 裕人 (日立一)	井崎 学 (緑 岡)	小野 見世 (竜崎一)
3 位	中島 啓 ( 境 )	高橋 康弘 (水戸一)	

4位 久保木正人 (大 洗)      小室 貞勝 (日立一)

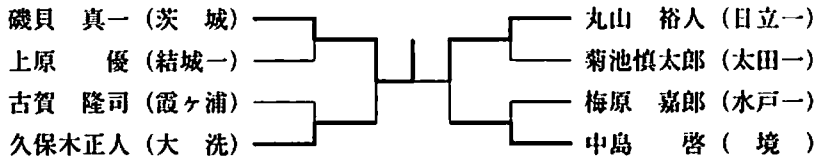
個人戦C級 (Aの敗者)

1位 渡辺 剛 (水戸一)  
 2位 木村 智世 (水戸一)  
 3位  
 3位

個人戦D級 (Bの敗者)

石津 美春 (鉾田一)  
 金島慎太郎 (鉾田一)  
 大岩 良 ( 境 )  
 櫻村 敏一 (霞ヶ浦)

男子個人Aのトーナメント表 (ベスト8より)



夏季大会 (第8回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦)

平成7年6月16日(金)に茨城県民文化センター分館で行われた。参加者は105名であった。A級戦は中島啓 (境2年) が制し、平成7年8月19日(土)に福岡県第一薬科大学で行われた第8回全国高等学校将棋竜王戦に駒を進めた。県予選の結果は下記の通りである。

A級

優勝 中島 啓 ( 境 )  
 2位 磯貝 真一 (茨 城)  
 3位 原田 慎一 (太田一)  
 3位 及川 純 (水戸一)

B級1組

渡辺 剛 (水戸一)  
 木村 智也 (水戸一)  
 大橋 正宣 (水戸一)  
 内田 孝浩 (土日大)

B級2組

梅原 嘉郎 (水戸一)  
 中島 悠 (水戸一)  
 飛田 明浩 (水戸一)  
 川田 稔 (霞ヶ浦)

C級1組

優勝 阿部 裕 (土浦一)  
 2位 白野 雪雄 (霞ヶ浦)  
 3位 石濱 洋平 (土浦一)  
 3位 川久保信彦 (水戸一)

C級2組

高橋 康弘 (水戸一)  
 篠崎 俊秋 (下妻二)  
 福井 敦史 (水戸一)  
 萩原 明宏 (土浦一)

D級 (A級の敗者)

1位 館 一史 (土浦一)  
 2位 渡辺 岳人 (古河三)

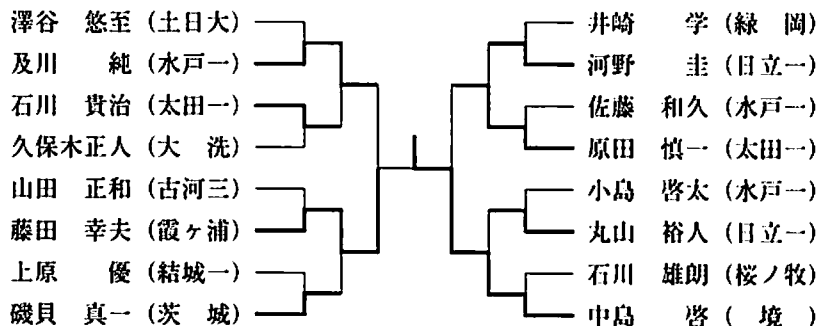
E級 (Bの敗者)

大野 修平 (霞ヶ浦)  
 石津 美晴 (鉾田一)

F級 (C級の敗者)

古渡 敦志 (霞ヶ浦)  
 船田 真広 (竜崎一)

### A級のトーナメント表（2回戦ベスト16より）



### 秋季大会

秋季大会は平成7年11月15日(木)石岡市民会館において開催された。本大会のA級の上位4名は、12月23日(土)千葉県船橋市で行われる第6回関東高文連将棋大会の出場権を得た。さらに、決勝に進んだ澤谷悠至（土浦日大）と磯貝真一（茨城）の両名と、今年度初参加し女子の決勝に進んだ高橋まりも（古河三）と中山康子（太田一）の併せて4名が平成8年1月25日(木)～26日(金)に高知県で行われる第4回全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権を獲得した。

男子	A級	B級1組	B級2組
優勝	澤谷 悠至 (土日大)	内海 匡隆 ( 境 )	大津 雅人 (茨 城)
2位	磯貝 真一 (茨 城)	酒井 卓 (土日大)	磯部 航 (土浦一)
3位	河野 圭 (日立一)	小室 貞勝 (日立一)	小沼 健展 (水戸一)
4位	中島 啓 ( 境 )	志垣 太一 (土日大)	中川 健司 (下妻一)

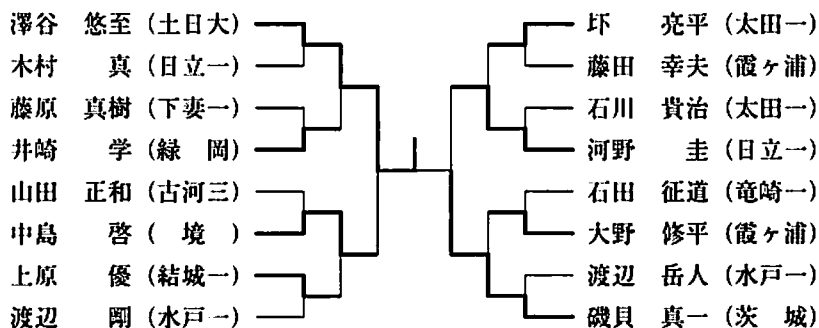
C級 (A級の敗者)	D級1組 (B1の敗者)	D級2組 (Bの敗者)
1位 木村 智 (水戸一)	飯島 敬康 (茨 城)	萩原 明宏 (土浦一)
2位 川田 稔 (霞ヶ浦)	飛田 明浩 (水戸一)	郭 暁龍 (竹 園)

### 女子

優勝	高橋まりも (古河三)
2位	中山 康子 (太田一)
3位	大里めぐみ (石岡一)
4位	安喰 聖恵 (古河三)



### A級のトーナメント表（2回戦ベスト16より）



### 第6回関東地区高等学校文化連盟将棋大会

関東大会が、平成7年12月23日(土)千葉県船橋市の勤労市民センターにおいて開催され、6都県24名の選手がトーナメント方式で戦った。

- 1回戦 中島 啓 (境) ● ○岩木 健 (神奈川・慶応)  
 磯貝 真一 (茨城) ● ○伊藤 陽平 (東京・暁星)  
 河野 圭 (日立一) ○ ●葉狩 悠吾 (千葉県・県立千葉)
- 2回戦 澤谷 悠至 (土日大) ○ ●高野 素弘 (神奈川・桐蔭)  
 河野 圭 (日立一) ● ○高橋 直人 (栃木・県立宇都宮)
- 3回戦 澤谷 悠至 (土日大) ● ○軽部龍太郎 (東京・武蔵野)

### 第4回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

平成8年1月25日(木)~26日(金)まで、高知県で行われた高文連将棋新人大会に本県代表として、男子は澤谷悠至(土浦日大)、磯貝真一(茨城)、女子は、高橋まりも(古河三)、安喰聖恵(古河三)が参加した。

- 澤谷 悠至 予選リーグ2敗で予選は通過できなかった。  
 磯貝 真一 予選リーグ2勝1敗で惜しくも予選は通過できなかった。  
 高橋まりも 予選リーグ2勝で予選通過。  
 決勝トーナメント1回戦敗退。  
 安喰 聖恵 予選リーグ2敗で予選は通過できなかった。

# 平成 8 (1996) 年度

## 平成 8 年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会 長	矢 須 恵 由 (下館一)	会 計	高 須 宏 道 (鉦田一)
副会長	笹 島 三 郎 (茨 城)	同	江 幡 收 一 (霞ヶ浦)
同	植 田 泰 史 (水戸一)	監 査	飯 島 良 夫 (土浦一)
書 記	青 木 睦 人 (緑 岡)	同	高 橋 健 一 (土日大)
同	豊 崎 利 明 (水戸一)		

## 平成 8 年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校 (23校)

日立一	日立商	太田一	水戸一	緑 岡	水戸桜ノ牧	大 洗	土浦一
鉦田一	中 央	石岡一	竜ヶ崎一	竹 園	下妻一	結城一	古河三
境	友部東	茨 城	水 城	土浦日大	霞ヶ浦	つくば秀英	

## 春季大会

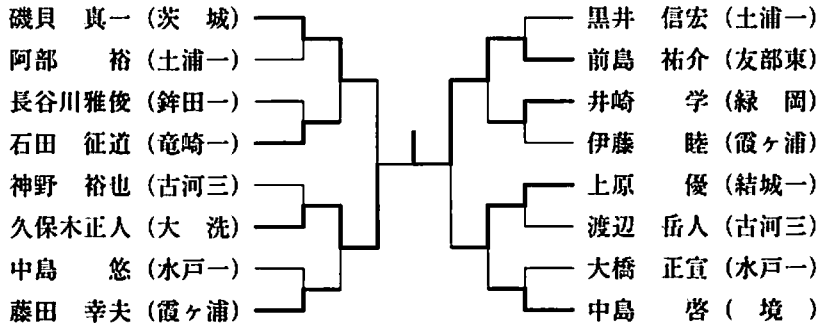
平成 8 年度春季大会は、第20回全国高等学校総合文化祭将棋部門（第32回全国高等学校将棋選手権茨城県代表決定戦）の県予選である。平成 8 年 5 月14日(火)に水戸一高知道会館で行われた。男子団体Aの参加校は 9 校、団体Bは 6 校、男子個人戦Aは24名、個人戦Bは65名、総勢134名の申込数であった。団体の優勝校太田一（桑田健二1年、石川貴治3年、坏亮平3年）及び男子個人戦優勝の前島祐介（友部東2年）が8月7日(土)～8日(日)に北海道江別市で行われる全国大会の出場権を得た。なお、太田一は団体戦五連覇を記録した。

	団体戦 A	団体戦 B	団体戦 C (敗者戦)
優勝	太田一 A	水戸一	霞ヶ浦
2 位	水戸一	日立一	土浦一
3 位	日立一		水 城
3 位	茨 城 A		茨 城

	男子個人戦 A 級	男子個人戦 B 級 1 組	男子個人戦 B 級 2 組
優勝	前島 祐介 (友部東)	景山 大 ( 境 )	郭 暁龍 (竹 園)
2 位	久保木正人 (大 洗)	森 裕貴 (竹 園)	川久保伸彦 (水戸一)
3 位	磯貝 真一 (茨 城)	荒井 隆史 ( 境 )	黒澤 友博 (日立商)
3 位	上原 優 (結城一)	白野 雪雄 (霞ヶ浦)	高橋 直也 (水戸一)

	男子個人戦 C 級 (A の敗者)	男子個人戦 D 級 (B の敗者)	女子個人戦
優勝	黒田 智博 (竜崎一)	酒井 卓 (土日大)	茂田 朋子 (古河三)
2 位	綱川 隆司 (水戸一)	渡辺 直 (水戸一)	高橋まりも (古河三)
3 位		長通 幸大 (竹 園)	李沢 里美 (土日大)
3 位		鳥崎 吉彦 (土日大)	

男子個人A級のトーナメント表（ベスト16より）

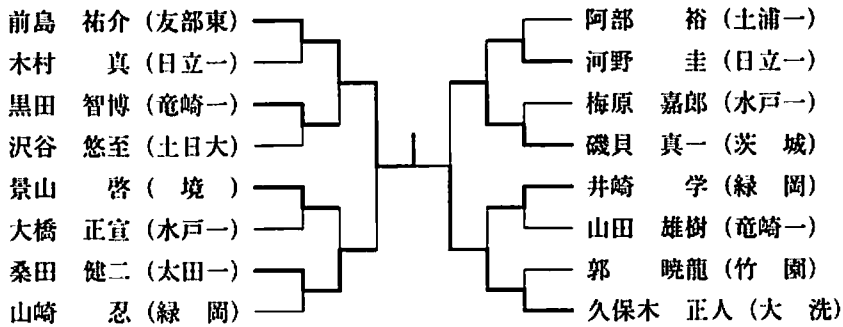


夏季大会（第9回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦）

平成8年6月7日(金)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加者は135名（女子参加7名）であった。A級は春季大会に続いて前島祐介（友部東2年）が制した。全国大会は平成8年8月22日(金)～23日(土)に福岡県第一薬科大学で行われた第9回全国高等学校将棋竜王戦に駒を進めた。県予選の結果は下記の通りである。

A級	B級1組	B級2組
優勝 前島 祐介 (友部東)	萩原 明宏 (土浦一)	磯部 航 (土浦一)
2位 久保木正人 (大洗)	伊藤 睦 (霞ヶ浦)	飛田 明浩 (水戸一)
3位 桑田 健二 (太田一)	中川 健二 (下妻一)	渡辺 直 (土日大)
3位 磯貝 真一 (茨城)	佐藤 峰治 (境)	大野 修平 (霞ヶ浦)

A級のトーナメント表（2回戦ベスト16より）



C級	D級 (A級の敗者)
優勝 古渡 淳至 (霞ヶ浦)	中島 啓 (境)
2位 佐藤 智法 (茨城)	上原 優 (結城一)
3位 李沢 里美 (土日大)	菊池 朋亮 (土日大)
3位 小室 吉隆 (茨城)	渡辺 剛 (水戸一)

E級1組 (B1の敗者)	E級2組 (B2の敗者)	F級 (Cの敗者)
1位 桜井 嵩善 (水戸一)	川久保伸彦 (水戸一)	富沢 功 (霞ヶ浦)
2位 石浜 洋平 (土浦一)	福井 敦史 (水戸一)	岩瀬 光央 (土日大)
3位 斉藤 仁 (水 城)	米川 伸生 (緑 岡)	平野 統 (茨 城)
3位 荒井 隆史 ( 境 )	柏原 中 (茨 城)	鈴木 智則 (土日大)

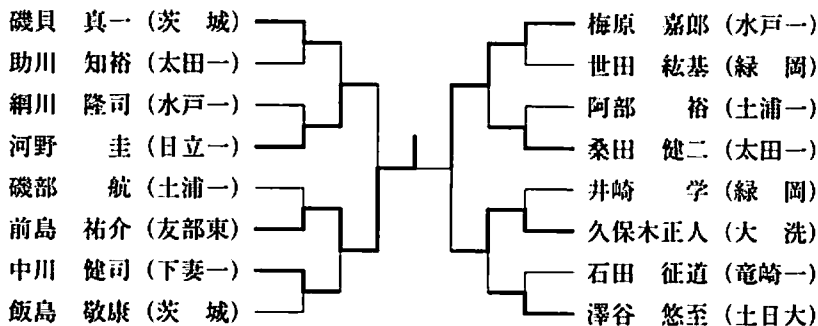
### 秋季大会

秋季大会は平成8年11月19日(火)石岡市民会館において開催された。参加者は114名(女子参加9名)であった。本大会のA級の上位4名前島祐介(友部東)、梅原嘉郎(水戸一)、河野圭(日立一)、久保木正人(大洗)は、12月22日(日)に東京都立戸山高等学校で行われる関東大会の出場権を得た。また、男子決勝に進んだ前島祐介(友部東)と梅原嘉郎(水戸一)の両名と、女子の部で上位進出した森嶋純子(水戸一)、高橋まりも(古河三)、茂田朋子(古河三)、野内真理子(水戸一)の4名は平成9年1月23日(木)~25日(土)に長野県伊那市伊那文化会館で行われる第5回全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権も同時に獲得した。

A級	B級1組	B級2組
優勝 前島 祐介 (友部東)	森 裕貴 (竹 園)	飛田 明浩 (水戸一)
2位 梅原 嘉郎 (水戸一)	大津 雅人 (茨 城)	川久保伸彦 (水戸一)
3位 河野 圭 (日立一)	沢畑 雄也 (日立一)	馬場 人士 (水戸一)
3位 久保木正人 (大 洗)	小沢 達也 (水 城)	

C級 (A級の敗者)	D級1組 (B1の敗者)	D級2組 (Bの敗者)
優勝 斉藤 仁 (水 城)	谷中 竜雄 (土浦一)	阿久津一弥 (茨 城)
2位 佐藤 智法 (茨 城)	安斉 光洋 (水戸一)	船田 真広 (竜崎一)
3位 黒井 信宏 (土浦一)		

### A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



**女子A級**

優勝 森嶋 純子 (水戸一)  
 2位 高橋まりも (古河三)  
 3位 茂田 朋子 (古河三)  
 3位 野内真理子 (水戸一)

**女子敗者戦**

宮丸 早苗 (土浦一)  
 中村美由紀 (水戸一)

**第32回全国高等学校将棋選手権大会**

本県から、団体の優勝校太田一 (桑田健二1年、石川貴治3年、坪亮平3年) 及び男子個人戦優勝の前島祐介 (友部東2年) が8月7日(土)～8日(日)に北海道江別市で行われた全国大会に出場した。

団体戦 1回戦 太田一 不戦勝

2回戦 太田一 ○ ● 大分上野丘 (大分県)

3回戦 太田一 ● ○ 盛岡一 (岩手県)

個人戦 1回戦 前島 祐介 (友部東) ○ ● 藤森 正樹 (岡山・倉敷天城)

2回戦 前島 祐介 (友部東) ● ○ 古田 龍生 (埼玉・慶応志木)

**第9回全国高等学校将棋竜王戦**

本県から、前島祐介 (友部東2年) が平成8年8月22日(金)～23日(土)に福岡県第一薬科大学で行われた第9回全国高等学校将棋竜王戦に出場した。

1回戦 前島 祐介 (友部東) ● ○ 熊野 剛 (大阪・初芝)

**第7回関東地区高等学校文化連盟将棋大会**

関東大会が、平成8年12月22日(日)東京都立戸山高等学校において開催された。男子は7都県28名が参加しトーナメント方式で戦われた。本県女子は不参加であった。

1回戦 梅原 嘉郎 (水戸一) ○ ● 市川 剛 (群馬・高崎)

河野 圭 (日立一) ○ ● 木方 宏英 (埼玉・越谷北)

前島 祐介 (友部東) ○ ● 大谷 晋 (神奈川・金井)

久保木正人 (大洗) ● ○ 中谷 拓也 (東京・麻布)

2回戦 梅原 嘉郎 (水戸一) ○ ● 三木 聖司 (栃木・宇都宮)

河野 圭 (日立一) ○ ● 阿久津佳永 (群馬・館林)

前島 祐介 (友部東) ○ ● 吉沢 進治 (群馬・前橋)

3回戦 梅原 嘉郎 (水戸一) ● ○ 鈴木 琢光 (東京・麻布)

河野 圭 (日立一) ● ○ 岩本 健 (神奈川・慶応)

前島 祐介 (友部東) ● ○ 古田 龍生 (埼玉・慶応志木)

## 平成 9 (1997) 年度

### 平成 9 年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会 長	矢 須 恵 由 (下館一)	書 記	松 実 敏 之 (水 城)
副会長	笹 島 三 郎 (茨 城)	同	豊 崎 利 明 (水戸一)
同	植 田 泰 史 (水戸一)	会 計	深 谷 浩 一 (中 央)
事務局	江 幡 收 一 (霞ヶ浦)	同	高 須 宏 直 (鉾田一)
同	中 根 浩 (下妻一)	監 査	飯 島 良 夫 (土浦一)
同	青 木 睦 人 (緑 岡)	同	高 橋 健 一 (土日大)
		顧 問	天 貝 茂 樹

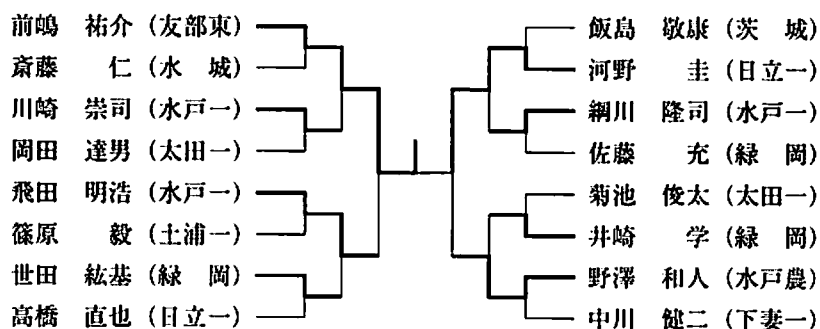
### 平成 9 年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校 (20校)

日立一	日立商	太田一	水戸一	緑 岡	水戸農	中 央	土浦一
鉾田一	竜ヶ崎一	竹 園	下館工	下妻一	古河三	境	友部東
茨 城	水 城	土浦日大	霞ヶ浦				

### 春季大会

平成 9 年度春季大会は、第21回全国高等学校総合文化祭将棋部門（第33回全国高等学校将棋選手権茨城県代表決定戦）の県予選である。平成 9 年 5 月 16 日(金)に水戸一高知道会館で行われた。男子団体 A の参加校は 8 校、団体 B は 6 校、男子個人戦 A 21 名、個人戦 B は 52 名である。女子は個人戦の 6 名で、総勢 121 名の申込数であった。団体戦の優勝校の土浦一高（土屋元計 1 年、黒井信宏 3 年、安部裕 3 年）と男子個人戦優勝の前嶋祐介（友部東 3 年）、及び女子個人戦優勝者の森嶋純子（水戸一 2 年）が 8 月 9 日(木)～10 日(木)に奈良県香芝市で行われる全国大会の出場権を得た。

### 男子個人 A 級のトーナメント表 (ベスト 16 より)



団体戦 A 級	男子個人戦 A 級	女子個人戦
優勝 土浦一	前嶋 祐介 (友部東)	森嶋 純子 (水戸一)
2 位 太田一	河野 圭 (日立一)	野内真理子 (水戸一)
3 位 水戸一	飛田 明浩 (水戸一)	中村美由紀 (水戸一)
3 位 竜ヶ崎一	野澤 和人 (水戸農)	関 浩美 (水戸一)

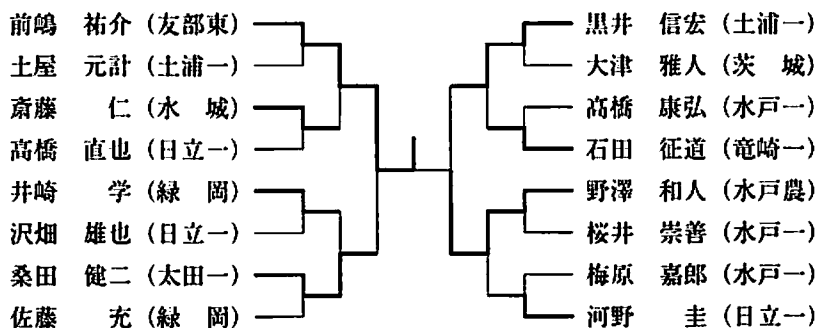
## 夏季大会（第10回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦）

平成9年6月10日(火)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加予定者は申し込み段階で132名で内5名が女子の参加であった。A級は前嶋祐介（友部東3）が制し、平成9年8月23日(土)～24日(日)に福岡県第一薬科大学で行われた第10回全国高等学校将棋竜王戦に駒を進めた。県予選の結果は下記の通りである。

なお、前嶋祐介の全国大会の結果は、2回戦敗退であった。

	A級	B級1組	B級2組
優勝	前嶋 祐介（友部東）	大山 誕人（水戸一）	飛田 明浩（水戸一）
2位	野澤 和人（水戸農）	瀧口 景太（水戸一）	益子 聖弘（土浦一）
3位	桑田 健二（太田一）	字留野 学（水戸一）	馬場 人土（水戸一）
3位	黒井 信宏（土浦一）	野田 泰斗（土浦一）	岡田 達男（太田一）

### A級のトーナメント表（2回戦ベスト16より）



### C級

優勝	中島 優太（霞ヶ浦）
2位	村上総一郎（下妻一）
3位	高墨 宏（霞ヶ浦）
3位	東ヶ崎勇吾（明秀）

### D級（A級の敗者）

1位	土屋 元計（土浦一）
2位	土子 貴智（土日大）

### E級1組（B1の敗者）

仲田 教人（水戸一）
田中 章浩（水戸一）

### E級2組（B2の敗者）

鈴木 裕太（日立一）
佐藤 智法（茨城）

### F級（C級の敗者）

1位	加児 雄哉（土浦一）
2位	栗田 洋輔（日立一）

## 秋季大会

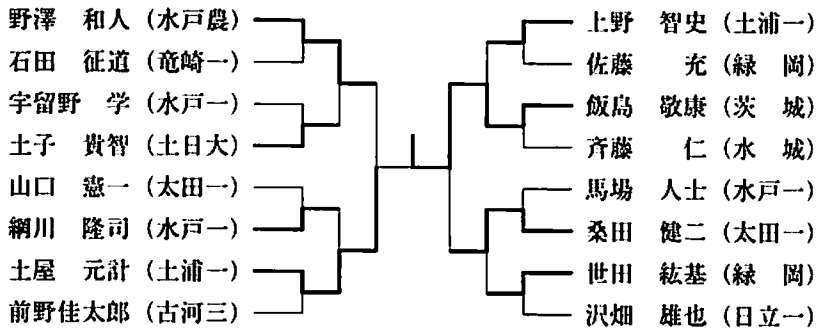
秋季大会は平成9年11月12日(休)石岡市民会館において開催された。本大会のA級の上位4名の飯島敬康(茨城3年)、土屋元計(土浦一1年)、野澤和人(水戸農1年)、桑田健二(太田一2年)は、12月21日に埼玉県浦和市開催となる関東大会の出場権を得た。さらに、全国新人大会は3年生である飯島敬康(茨城3年)には出場権がないため、土屋元計(土浦一1年)と野澤和人(水戸農1年)の両名が、平成10年1月22日(木)~23日(金)に岩手県花巻市で行われた第6回全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権を獲得した。

女子の部は、森嶋純子(水戸一2年)が優勝したが、全国大会、関東大会ともに出場を辞退した。

A級	B級1組	B級2組
優勝 飯島 敬康(茨城)	瀧口 景太(水戸一)	有泉 隼(水城)
2位 土屋 元計(土浦一)	佐藤 哲治(境)	大山 誕人(水戸一)
3位 野澤 和人(水戸農)	佐藤 智法(茨城)	倉沢 泰浩(水戸一)
3位 桑田 健二(太田一)	岩脇 翼(緑岡)	関口 達也(水戸一)

C級(A級の敗者)	D級1組(Bの敗者)	女子の部
1位 岡本 博志(太田一)	泉 祐介(水戸一)	森嶋 純子(水戸一)
2位 海老沢 裕(緑岡)	磯崎 直樹(緑岡)	中村美由紀(水戸一)

### A級のトーナメント表(2回戦ベスト16より)



### 第21回全国高等学校総合文化祭将棋部門(第33回全国高等学校将棋選手権茨城県代表決定戦)

全国大会で男子団体戦の土浦一高はベスト16に進出したが、男子個人戦の前嶋祐介は1回戦敗退、女子個人戦の森嶋純子は2回戦敗退であった。



### 第8回関東地区高等学校文化連盟将棋大会

関東大会が、平成9年12月21日(日)埼玉県浦和市の浦和市民会館において開催された。大会は男子が7都県28名によるトーナメント方式、女子が5都県12名(本県は不参加)によるスイス式4回戦で行われた。

- 1回戦 野澤 和人(水戸農) ● ○狼谷 力(千葉 八千代松陰)  
土屋 元計(土浦一) ● ○市川 剛士(神奈川 法政二)  
桑田 健二(太田一) ○ ●久田 悟(千葉 県立千葉)  
飯島 敬康(茨城) ● ○神戸 智大(神奈川 聖光学院)
- 2回戦 桑田 健二(太田一) ○ ●原沢 祐輔(群馬 高崎)
- 3回戦 桑田 健二(太田一) ● ○市川 敏之(東京 麻布)

### 第7回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

全国新人大会が、平成10年1月22日(木)~23日(金)岩手県花巻市のホテル千秋閣において開催された。本県より土屋元計(土浦一1年)と野澤和人(水戸農1年)が参加した。土屋元計は、予選リーグ2連勝で予選通過し、決勝トーナメントに進出したが、初戦敗退であった。野澤和人は予選リーグ2連敗で敗退した。

- 予選1回戦 土屋 元計 ○ ●久野 潤(奈良 奈良学園)  
予選2回戦 土屋 元計 ○ ●松下進一郎(岡山 岡山朝日)
- 本戦1回戦 土屋 元計 ● ○佐藤 郁人(北海道 北広島)
- 予選1回戦 野澤 和人 ● ○神川 一星(広島 舟入)  
予選2回戦 野澤 和人 ● ○熊野 剛(大阪 初芝)

## 平成10（1998）年度

### 平成10年度茨城県高等学校文化連盟将棋部役員

会長	矢 須 恵 由 (太田一)	監 査	飯 島 良 夫 (土浦一)
副会長	笹 島 三 郎 (茨 城)	同	高 橋 健 一 (土日大)
同	植 田 泰 史 (水戸一)	同	会 沢 力 (太田一)
事務局	江 幡 收 一 (霞ヶ浦)	同	深井沢 駿 一 (日立一)
同	中 根 浩 (下妻一)		
同	青 木 睦 人 (緑 岡)		
書 記	松 実 敏 之 (水 城)		
同	豊 崎 利 明 (水戸一)		
同	矢 須 雅 進 (竜崎一)		
会 計	藤 崎 正 輝 (水戸農)		
同	高 須 宏 直 (鉾田一)		

### 平成10年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校（19校）

日立一	日立商	太田一	海 洋	水戸一	緑 岡	水戸農	土浦一
鉾田一	竜ヶ崎一	下館工	下妻一	古河三	境	守 谷	茨 城
水 城	土浦日大	霞ヶ浦					

### 春季大会

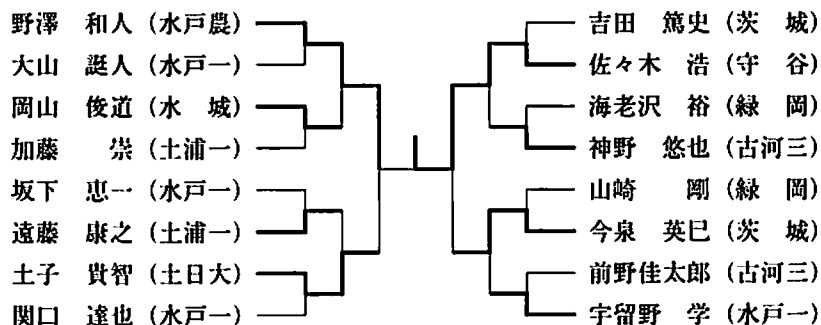
平成10年度春季大会は、第23回全国高等学校総合文化祭将棋部門（第33回全国高等学校将棋選手権茨城県代表決定戦）の県予選である。平成10年5月12日(火)に水戸一高知道会館で行われた。男子団体Aの参加校は8校、団体Bは6校、男子個人戦Aは18名、個人戦Bは54名で、総勢114名の申込数であった。団体の優勝校太田一（桑田健二3年、山口憲一3年、岡本博志2年）及び男子個人戦優勝の佐々木浩（守谷1年）が8月9日(土)～10日(日)に鳥取県倉吉市の鳥取県立倉吉文化会館で行われる全国大会の出場権を得た。

	団体戦A	団体戦B	団体戦C（敗者戦）
優勝	太田一	霞ヶ浦	土浦一
2位	水戸一A	水戸一B	水戸一B
3位	日立一A	土浦一B	水 城
3位	緑 岡	古河三	竜崎一

	個人戦A級	個人戦B級1組	個人戦B級2組
優勝	佐々木 浩 (守 谷)	植村 誠 (茨 城)	高 墨 宏 (霞ヶ浦)
2位	野澤 和人 (水戸農)	塚田 丈晴 (下館工)	安斎 光洋 (水戸一)
3位	今泉 英巳 (茨 城)	佐藤 哲治 ( 境 )	江幡 重之 (日立一)
3位	土子 貴智 (土日大)	高塚 雄一 (古河三)	山村 哲一郎 (緑 岡)

個人戦C級 (Aの敗者)	個人戦D級 (Bの敗者)
1位 渡辺 茂樹 (土浦一)	岩田 悠 (日立一)
2位 海老沢 裕 (緑岡)	村上総一郎 (下妻一)
3位 坂下 恵一 (茨城)	中根 崇道 (鉾田一)
3位 山崎 剛 (緑岡)	佐藤 峰治 (境)

男子個人A級のトーナメント表 (ベスト16より)



夏季大会 (第11回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦)

平成10年6月9日(火)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加者は111名で女子の参加はなかった。A級は春季大会に続いて佐々木浩(守谷1年)が制した。全国大会は平成10年8月22日(金)~23日(土)に福岡県第一薬科大学で行われる、第11回全国高等学校将棋竜王戦に駒を進めた。県予選の結果は下記の通りである。

A級		B級1組		B級2組	
優勝	佐々木 浩 (守谷)	遠藤 康之 (土浦一)	市川 和則 (霞ヶ浦)	佐藤 哲治 (境)	
2位	土屋 元計 (土浦一)	佐藤 峰治 (境)	大久保洋一 (土浦一)	宇留野 学 (水戸一)	
3位	桑田 健司 (太田一)	佐藤 敦 (水戸一)			
3位	海老沢 裕 (緑岡)	小田倉仁志 (水戸一)			
C級1組		C級2組			
優勝	江畑 重之 (日立一)	後藤 哲朗 (土浦一)			
2位	須永 一宏 (日立一)	今野 将生 (土浦一)			
3位	長谷川 学 (竜崎一)	森藤 英隆 (竜崎一)			
3位	手塚 貴彦 (土浦一)	笥田 悠一 (霞ヶ浦)			
D級 (A級の敗者)		E級1組 (B1の敗者)		E級2組 (B2の敗者)	
1位	鈴木 裕太 (日立一)	山崎 剛 (緑岡)	青木 潤也 (水戸一)		
2位	瀧口 景太 (水戸一)	岩脇 翼 (緑岡)	山村哲一郎 (緑岡)		

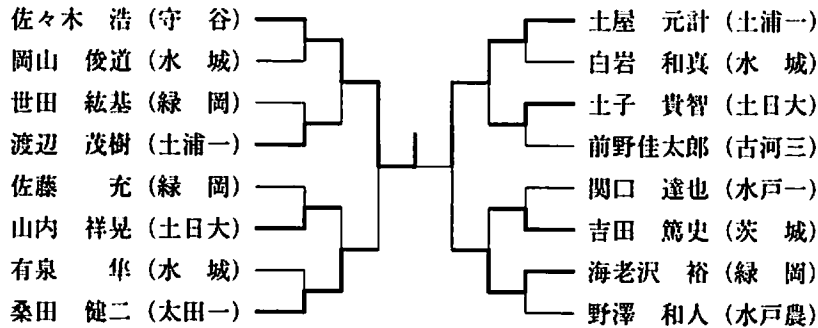
F級1組 (C1の敗者)

- 1位 佐藤 大輔 (土浦一)  
2位 本橋 佑介 (竜崎一)

F級2組 (C2の敗者)

- 長嶋 亮 (日立一)  
松倉 浩之 (日立商)

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



秋季大会

秋季大会は平成10年11月9日(月)石岡市民会館において開催された。本大会のA級の上位4名は、12月20日に地元開催となる関東大会の出場権を得た。また決勝に進んだ土屋元計(土浦一2年)と今泉英巳(茨城2年)の両名は、平成11年1月27日(水)~29日(金)に愛媛県松山市の道後プリンスホテルで行われた第7回全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権も同時に獲得した。

A級

- 優勝 土屋 元計 (土浦一)  
2位 今泉 英巳 (茨城)  
3位 渡辺 茂樹 (土浦一)  
3位 市川 和則 (霞ヶ浦)

B級1組

- 高墨 宏 (霞ヶ浦)  
加藤 崇 (土浦一)  
今野 将生 (土浦一)  
遠藤 康之 (土浦一)

B級2組

- 和田 紘己 (土浦一)  
江畑 重之 (日立一)  
山村 哲一郎 (緑岡)  
菊池 寛之 (茨城)

C級 (A級の敗者)

- 1位 瀧口 景太 (水戸一)  
2位 大山 誕人 (水戸一)

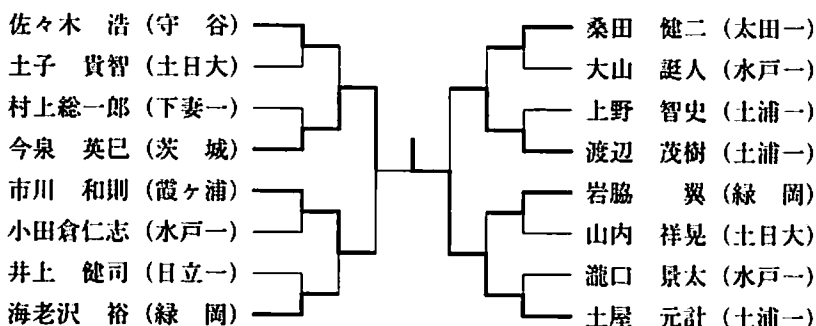
D級1組 (B1の敗者)

- 神長 充 (水戸一)  
岩田 悠 (日立一)

D級2組 (B2の敗者)

- 後藤 哲朗 (土浦一)  
志茂 祐輔 (土浦一)

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



### 第9回関東地区高等学校文化連盟将棋大会

関東大会が、平成10年12月20日(日)茨城県水戸市の水戸市民会館において開催された。本県開催は平成4年の石岡一高開催から6年ぶり2度目となる。男子は7都県28名によるトーナメント方式、女子は5都県15名(本県は不参加)によるスイス式4回戦が行われた。

- |     |             |                  |
|-----|-------------|------------------|
| 1回戦 | 今泉 英巳(茨城)●  | ○松本 勝(群馬・県立吉井)   |
|     | 市川 和則(霞ヶ浦)● | ○君島俊介(栃木・作新学院)   |
|     | 渡辺 茂樹(土浦一)○ | ●安達道将(栃木・県立宇都宮)  |
| 2回戦 | 土屋 元計(土浦一)○ | ●寺口流平(千葉・県立船橋)   |
|     | 渡辺 茂樹(土浦一)● | ○伊藤享史(東京・明治大学付属) |
| 3回戦 | 土屋 元計(土浦一)● | ○小林広卓(神奈川・桐蔭学園)  |

### 第7回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

平成11年1月27日(水)～29日(金)に愛媛県松山市の道後プリンスホテルにおいて行われ、本県より土屋元計(土浦一1年)と今泉英巳(茨城2年)が参加した。土屋元計は予選リーグ1勝2敗で惜しくも予選は通過できなかった。今泉英巳は、予選リーグ2勝1敗で予選通過したが、決勝トーナメント1回戦でこの大会で優勝した植木力(富山)に惜しくも敗退した。

## 平成11 (1999) 年度

### 平成11年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会長	矢 須 恵 由 (太田一)	書記	松 実 敏 之 (水 城)
副会長	笹 島 三 郎 (茨 城)	同	豊 崎 利 明 (水戸一)
同	江 幡 收 一 (霞ヶ浦)	会計	深 谷 浩 一 (中 央)
事務局	青 木 睦 人 (緑 岡)	監 査	植 田 泰 史 (水戸一)
同	中 根 浩 (下妻一)	同	高 橋 健 一 (土日大)
同	藤 崎 正 輝 (水戸農)		
同	矢 須 雅 進 (竜崎一)		

### 平成11年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校 (17校)

日立一	日立商	太田一	海 洋	水戸一	緑 岡	水戸農	土浦一
鉾田一	竜ヶ崎一	下妻一	中 央	境 守	谷 茨 城	水 城	霞ヶ浦

### 春季大会

平成11年度春季大会は、第23回全国高等学校総合文化祭将棋部門（第35回全国高等学校将棋選手権茨城県代表決定戦）の県予選である。平成11年5月12日(木)に水戸一高・知道会館で行われた。男子団体Aの参加校は6校、団体Bは9校、男子個人戦Aは14名、個人戦Bは39名、女子リーグ4名で、総勢102名の申込数であった。団体の優勝校日立一（鈴木裕太3年、益子聖弘3年、井上健司3年）及び男子個人戦優勝の佐々木浩（守谷2年）、女子個人戦優勝の栗原真由子（水戸一3年）が7月31日(土)～8月1日(日)に山形県天童市の天童市民プラザで行われる全国大会の出場権を得た。

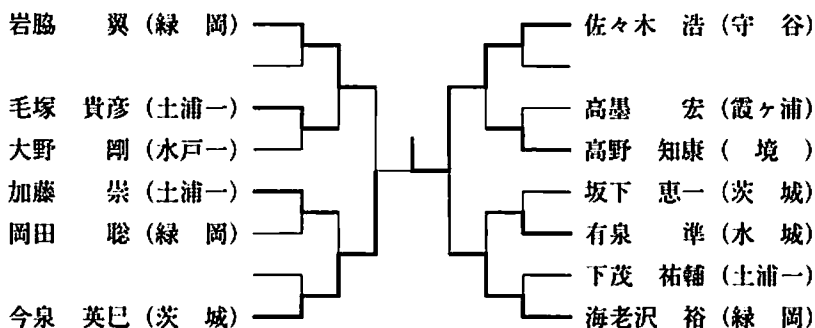
	団体戦A級	団体戦B級	女子個人
優勝	日立一	日立一	栗原真由子 (水戸一)
2位	水戸一A	水戸一A	川澄 智美 (中 央)
3位	土浦一	霞ヶ浦	阿内 里美 (中 央)
3位	水戸一B	太田一	齋藤 まや (中 央)

	個人戦A級	個人戦B級1組	個人戦B級2組
優勝	佐々木 浩 (守 谷)	村上総一郎 (下妻一)	中島 優太 (霞ヶ浦)
2位	今泉 英巳 (茨 城)	杉田 尊 (茨 城)	片岡 雅浩 (鉾田一)
3位	海老沢 裕 (緑 岡)	照山 忠 (日立商)	白岩 学 (土浦一)
3位	岩脇 翼 (緑 岡)	栗田 洋輔 (日立一)	坂内 英彰 (土浦一)

個人戦C級(団体戦の敗者を個人戦に)	個人戦D級(個人戦A敗者戦)	個人戦E級(個人戦B敗者戦)
1位 上野 智史(土浦一)	大野 剛史(水戸一)	菊池 寛之(茨城)
2位 今野 将生(土浦一)	高墨 宏(霞ヶ浦)	磯崎 直樹(緑岡)
3位 吉田 高司(太田一)	岡田 聡(緑岡)	鬼沢 寿和(鉾田一)
3位 岡本 博志(太田一)	坂下 恵一(茨城)	山村啓一郎(緑岡)

男子個人A級のトーナメント表



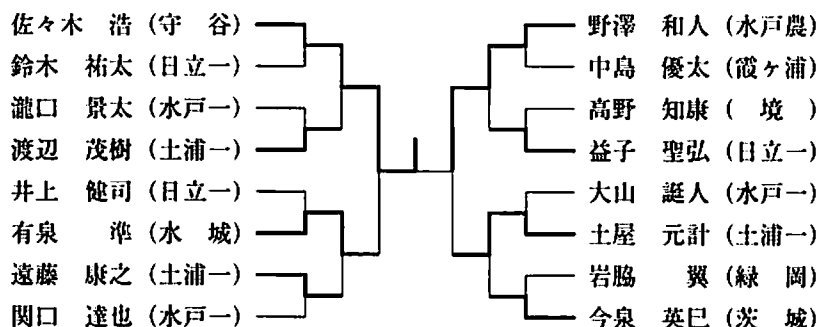
夏季大会(第12回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦)

平成11年6月9日(休)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加者は119名で女子の参加はなかった。A級は春季大会に続いて佐々木浩(守谷2年)が制した。全国大会は平成11年8月21日(金)~22日(土)に福岡県第一薬科大学で行われた第12回全国高等学校将棋竜王戦に駒を進めた。県予選の結果は下記の通りである。

A級	B級1組	B級2組
優勝 佐々木 浩(守谷)	坂本 勇太(土浦一)	加藤 崇(土浦一)
2位 野澤 和人(水戸農)	上野 智史(土浦一)	砥綿 洋佑(水戸一)
3位 土屋 元計(土浦一)	今野 将生(土浦一)	杉田 尊(茨城)
3位 有泉 準(水城)	小田倉仁志(水戸一)	月田 昌宏(竜崎一)
C級1組	C級2組	
優勝 佐藤 大輔(土浦一)	糸賀 正芳(竜崎一)	
2位 田代 克浩(土浦一)	千田 和博(水戸一)	
3位 藤田 毅彦(茨城)	木内 純一(鉾田一)	
3位 坂内 英彰(土浦一)	本橋 祐介(竜崎一)	
D級(A級の敗者)	E級1組(B1の敗者)	E級2組(B2の敗者)
1位 瀧口 景太(水戸一)	菊池 寛之(茨城)	神長 充(水戸一)
2位 坂下 恵一(茨城)	鬼沢 寿和(鉾田一)	片岡 雅浩(鉾田一)

- |                |              |
|----------------|--------------|
| F級1組 (C1の敗者)   | F級2組 (C2の敗者) |
| 1位 長島 亮 (日立一)  | 小蘭江 亘 (水戸農)  |
| 2位 萩島 康弘 (土浦一) | 川俣 重之 (海 洋)  |

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



秋季大会

秋季大会は平成11年11月12日(金)石岡市民会館において開催された。本大会のA級の上位4名は、12月19日(日)に群馬県高崎市・高崎中央公民館で行われる第10回関東大会の出場権を得た。さらに、決勝に進んだ佐々木浩(守谷2年)と渡辺茂樹(土浦一2年)の両名は平成12年1月14日(金)~16日(日)に愛知県名古屋市の愛知県名古屋国際会議場で行われた第8回全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権も同時に獲得した。

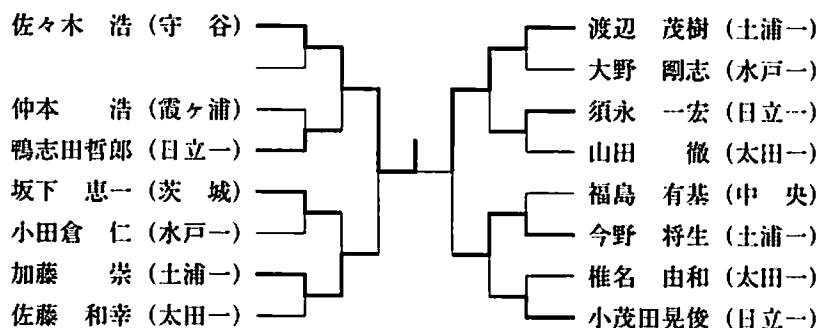
A級

- 優勝 佐々木 浩 (守 谷)  
 2位 渡辺 茂樹 (土浦一)  
 3位 加藤 崇 (土浦一)  
 3位 今野 将生 (土浦一)

B級

- 田代 克浩 (土浦一)  
 坂内 英彰 (土浦一)  
 永長 正義 (茨 城)  
 鈴木 宏晃 (霞ヶ浦)

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)





C級（A級の敗者）

D級（Bの敗者）

1位 小田倉 仁（水戸一）

橋本 峻一（霞ヶ浦）

2位 吉田 高司（太田一）

福地 大輔（太田一）

女子

優勝 佐川 由起（土浦一）

2位 阿内 里美（中央）

3位 松島 美恵（中央）

4位 齋藤 優香（中央）

### 第23回全国高等学校総合文化祭将棋部門（第35回全国高等学校将棋選手権大会）

平成11年7月31日(土)～8月1日(日)に山形県天童市天童市民プラザにおいて開催された。男子団体には日立一高（鈴木裕太、益子聖弘、井上健司）が参加し、男子個人には佐々木浩（守谷2年）、女子個人は栗原真由子（水戸一3年）が出場した。

男子団体1回戦 日立一 ●0-3○ 宇部（山口県）

男子個人1回戦 佐々木 浩（守谷） ● ○松川 幸司（沖縄・宮古）

女子個人1回戦 栗原真由子（水戸一） ● ○小野田知佳（滋賀・草津東）

### 第10回関東地区高等学校文化連盟将棋大会

関東大会が、平成11年12月19日(日)群馬県高崎市の高崎中央公民館において開催された。男子は7都県32名によるトーナメント方式、女子は5都県14名によるスイス式4回戦が行われた。

男子

1回戦 佐々木 浩（守谷）○ ●中島 伍（群馬・中央）

渡辺 茂樹（土浦一）● ○古賀 隆（東京・桐朋）

加藤 崇（土浦一）● ○関根 数馬（埼玉・早大本庄）

今野 将生（土浦一）● ○入倉 雄大（山梨・甲府昭和）

2回戦 佐々木 浩（守谷）● ○伊藤 享史（東京・明治大学付属）

女子

1回戦 佐川 山起（土浦一）● ○内田 ゆき（埼玉・杉戸）

2回戦 佐川 由起（土浦一）○ ●豊嶋久美子（神奈川・相模大工業）

3回戦 佐川 由起（土浦一）● ○野口 美香（千葉・市立柏）

4回戦 佐川 由起（土浦一）● ○芳野 裕子（千葉・幕張総合）

## 平成12（2000）年度

### 平成12年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会長	秋山和衛（太田一）	監査	植田泰史（水戸一）
副会長	笹島三郎（茨城）	同	酒井次男（日立一）
同	江幡收一（霞ヶ浦）	顧問	天貝茂樹
事務局	江幡收一（霞ヶ浦）		
同	青木睦人（緑岡）		
同	藤崎正輝（水戸農）		
同	矢須雅進（竜崎一）		
同	深谷浩一（中央）		
書記	松実敏之（水城）		
同	豊崎利明（水戸一）		
同	酒井次男（日立一）		
会計	深谷浩一（中央）		

### 平成12年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校（18校）

日立一	太田一	海洋	水戸一	緑岡	水戸桜ノ牧	水戸農	中央
鉦田一	土浦一	竜ヶ崎一	下妻一	守谷	古河三	茨城	水城
土浦日大	霞ヶ浦						

### 春季大会

平成12年度春季大会は、第24回全国高等学校総合文化祭将棋部門の県予選である。平成12年5月10日(木)に水戸一高・知道会館で行われた。男子団体Aの参加校は6校、団体Bは9校、男子個人戦Aは18名、個人戦Bは56名、女子個人戦は6名で、総勢143名の申込数であった。団体の優勝校土浦一（渡辺茂樹3年、遠藤康之3年、今野将生3年）、男子個人戦優勝の佐々木浩（守谷3年）、及び女子個人戦優勝の泉對直子（土浦一1年）が8月7日(月)～8日(火)に静岡県静岡商工会議所会館で行われた全国大会の出場権を得た。

	団体戦A	団体戦B	団体戦C（敗者戦）
優勝	土浦一	霞ヶ浦	水戸一
2位	日立一	水戸一A	太田一
3位	水戸一	水戸一B	
3位		海洋	

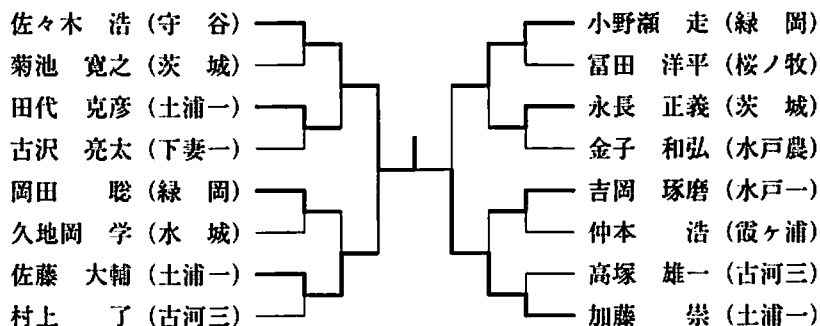
個人戦A級	個人戦B級1組	個人戦B級2組
優勝 佐々木 浩 (守 谷)	田中 義展 (竜崎一)	白岩 学 (土浦一)
2位 加藤 崇 (土浦一)	小林 達朗 (水戸一)	高柳 功 (鉾田一)
3位 小野瀬 走 (緑 岡)	石上 英輔 (鉾田一)	中村 祐介 (古河三)
3位 佐藤 大輔 (土浦一)	阿久津和宏 (鉾田一)	新井 大地 (霞ヶ浦)

個人戦C級 (Aの敗者)	個人戦D1級 (B1の敗者)	個人戦D2級 (B2の敗者)
優勝 菊地 寛之 (太田一)	坂本 伸吾 (土浦一)	青田 豊樹 (水 城)
2位 高塚 雄一 (古河三)	糸部 将平 (水戸一)	綿引 慎吾 (水戸一)
3位 久地岡 学 (水 城)	橋本 峻一 (霞ヶ浦)	萩庭 寿一 (日立一)
3位 金子 和弘 (水戸農)	立原 充泰 (水戸一)	大谷 朋之 (海 洋)

#### 女子個人戦

優勝 泉對 直子 (土浦一)
2位 古関 咲耶 (茨 城)
3位 川澄 尚美 (中 央)
3位 齋藤 優香 (中 央)

#### 個人Aのトーナメント表 (ベスト16より)



#### 夏季大会 (第13回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦)

平成12年6月6日(火)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加者は122名でその内女子は5名であった。A級は渡辺茂樹(土浦一3年)が優勝し、8月18日(金)～19日(土)に福岡県第一薬科大学で行われる第13回全国高等学校将棋竜王戦への出場権を獲得した。県予選の結果は下記の通りである。

A級	B級1組	B級2組
優勝 渡辺 茂樹 (土浦一)	遠藤 康之 (土浦一)	中原 康秀 (水 城)
2位 今野 将生 (土浦一)	田代 克浩 (土浦一)	田中 義展 (竜崎一)
3位 佐々木 浩 (守 谷)	小林 達朗 (水戸一)	泉對 直子 (土浦一)
3位 加藤 崇 (土浦一)	坂内 英彰 (土浦一)	白岩 学 (土浦一)

C級1組

- 優勝 小原 覚 (水戸一)  
 2位 岩瀬 英幸 (竜崎一)  
 3位 田所 高明 (海 洋)  
 3位 木戸 孝明 (水戸一)

C級2組

- 高嶋 泰夫 (土浦一)  
 片山 譲 (水戸一)  
 瀧澤 大地 (水戸一)  
 井上 一馬 (海 洋)

D級 (Aの敗者)

- 優勝 鈴木 宏晃 (霞ヶ浦)  
 2位 吉田 高司 (太田一)

E級1組 (B1敗者)

- 糸部 将平 (水戸一)  
 仲本 浩 (霞ヶ浦)

E級2組 (B2敗者)

- 橋本 峻一 (霞ヶ浦)  
 佐藤 大輔 (土浦一)

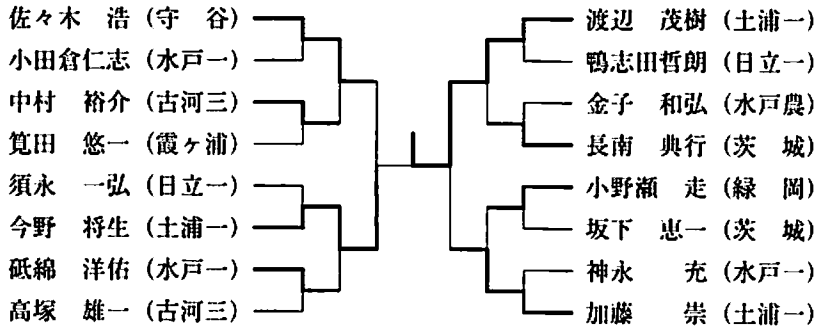
F級1組 (C1敗者)

- 優勝 宮本 雅幸 (水戸農)  
 2位 斉藤 優香 (中 央)

F級2組 (C2敗者)

- 尾身 泰弘 (古河三)  
 岩間 弘樹 (水戸一)

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



秋季大会

秋季大会は平成12年11月6日(月)石岡市民会館において開催された。本大会A級上位4名には、第11回関東大会への出場権が与えられ、また、1、2年生の上位2名には第9回全国高文連将棋新人大会への出場権が与えられた。また、女子の上位4名には関東大会および全国大会への出場権が与えられた。

男子A級

- 優勝 佐々木 浩 (守 谷)  
 2位 小林 達朗 (水戸一)  
 3位 小野瀬 走 (緑 岡)  
 4位 坂内 英彰 (土浦一)

女子個人戦

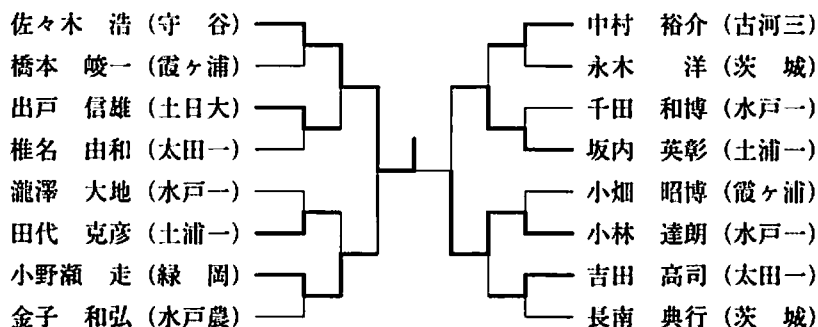
- 泉對 直子 (土浦一)  
 松島 美恵 (中 央)  
 川澄 尚美 (中 央)  
 斎藤 優香 (中 央)

	B級1組	B級2組	C級 (A級敗者)
優勝	小原 覚 (水戸一)	萩島 康弘 (土浦一)	長南 典行 (茨城)
2位	坂本 伸吾 (土浦一)	高嶋 泰夫 (土浦一)	久地岡 学 (水城)
3位	糸部 将平 (水戸一)	片山 譲 (水戸一)	橋本 峻一 (霞ヶ浦)
3位	野口 貴史 (古河三)	根本 幸司 (竜崎一)	永木 洋 (茨城)

D級 (B1、B2の敗者)

優勝	井上 一馬 (海洋)
2位	岩間 弘樹 (水戸一)
3位	小藪江 亘 (水戸農)

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



第11回関東地区高等学校文化連盟将棋大会

平成12年12月17日(日)に、栃木県宇都宮市栃木県教育会館において行われた。本県から男子は佐々木浩 (守谷)、小林達朗 (水戸一)、小野瀬走 (緑岡)、坂内英彰 (土浦一) の4名、女子は泉對直子 (土浦一)、松嶋美恵 (中央)、川澄尚美 (中央) の3名が参加した。

第9回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

平成13年2月8日(休)～10日(出)に、大分県別府市鶴見園グランドホテルにて行われた。本県より小林達朗 (水戸一)、小野瀬走 (緑岡)、泉對直子 (土浦一) が参加した。

## 平成13（2001）年度

### 平成13年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会長	秋山和衛（太田一）	全国会長	秋山和衛（太田一）
副会長	笹島三郎（茨城）	全国事務局	青木睦人（緑岡）
同	江幡收一（霞ヶ浦）	同	藤崎正輝（水戸農）
事務局	矢須雅進（竜崎一）		
同	青木睦人（緑岡）		
同	藤崎正輝（水戸農）		
同	深谷浩一（中央）		
書記	松田克教（水城）		
同	豊崎利明（水戸一）		
同	矢須雅進（竜崎一）		
監査	植田泰史（水戸一）		
同	諸岡正弘（海洋）		
顧問	天貝茂樹		

### 平成13年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校（18校）

日立一	太田一	海洋	水戸一	緑岡	水戸農	中央	鉾田一
土浦一	竜ヶ崎一	下妻一	結城二	境	古河三	茨城	水城
土浦日大	霞ヶ浦						

### 春季大会

平成13年度春季大会は、第25回全国高等学校総合文化祭将棋部門の県予選である。平成13年5月9日(水)に水戸一高知道会館で行われた。男子団体Aの参加校は5校、団体Bは6校、男子個人戦Aは20名、個人戦Bは43名、女子個人戦6名で、総勢105名の申込数であった。団体Aの優勝校水戸一A（小林達朗3年、千田和博3年、工藤恭弘3年）及び男子個人戦優勝の小野瀬走（緑岡2年）、女子個人戦優勝の泉對直子（土浦一2年）が8月4日(土)～5日(日)に福岡県北九州市の西日本総合展示場新館で行われる全国大会の出場権を得た。

	団体戦A	団体戦B
優勝	水戸一A	竜崎一
2位	水戸一B	海洋
3位	土浦一	水城
3位	水戸農	結城二

個人戦A級

優勝 小野瀬 走 (緑 岡)  
 2位 橋本 峻一 (霞ヶ浦)  
 3位 白石 学 (土浦一)  
 3位 長南 典行 (茨 城)

個人戦B級1組

広岡 昌彦 (茨 城)  
 新井 大地 (霞ヶ浦)  
 野田 旭慧 (土浦一)  
 萩原 哲也 (茨 城)

個人戦B級2組

坂本 伸吾 (土浦一)  
 三村 祐介 (水戸一)  
 佐藤 匡 (竜崎一)  
 鈴木 一弥 (茨 城)

個人戦C級 (Aの敗者)

1位 久地岡 学 (水 城)  
 2位 小畑 昭博 (霞ヶ浦)  
 3位 中村 祐介 (古河三)  
 3位 木戸 孝明 (水戸一)

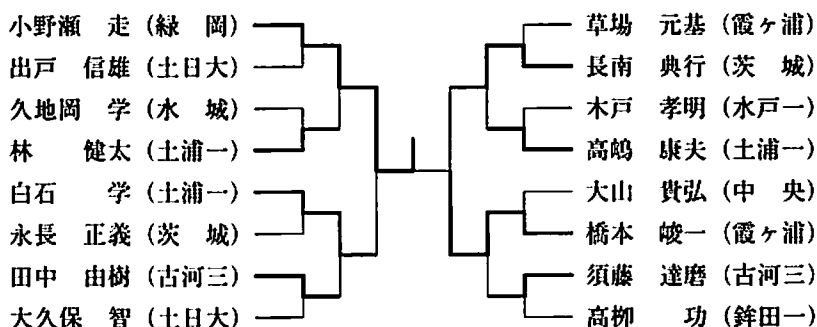
個人戦D1級 (Bの敗者)

加藤 大輔 (古河三)  
 武井 一馬 (水戸一)  
 斎藤 大 (古河三)  
 岩間 弘樹 (水戸一)

個人戦D2級 (Bの敗者)

菅原 彬徳 (日立一)  
 阿部 了 (霞ヶ浦)  
 柴野 智亘 (土日大)  
 高橋 秀幸 (古河三)

男子個人Aのトーナメント表 (ベスト16より)



女子個人戦 (総当たりリーグ戦)

優勝 泉對 直子 (土浦一)  
 準優勝 阿内 里美 (中 央)  
 3位 松嶋 美恵 (中 央)

準優勝と3位は直接対決により決定

5勝  
 3勝2敗  
 3勝2敗

夏季大会 (第14回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦)

平成13年6月8日(金)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加者は101名である。A級は春季大会に続いて小野瀬走(緑岡2年)が制した。平成13年8月23日(木)~24日(木)に福岡県第一経済大学で行われる、第14回全国高等学校将棋竜王戦に駒を進めた。また、女子ただ一人の参加となった泉對直子(土浦一2年)が四強に進出し、大会を盛り上げた。県予選の結果は下記の通りである。

A級

優勝 小野瀬 走 (緑 岡)  
 2位 高柳 功 (鉾田一)  
 3位 片山 譲 (水戸一)  
 3位 泉對 直子 (土浦一)

B級1組

千田 和博 (水戸一)  
 海野 光宏 (茨 城)  
 三村 祐介 (水戸一)  
 前島 崇宏 (水戸一)

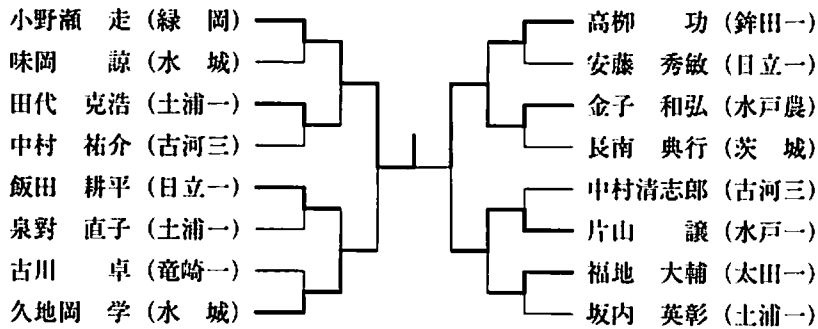
B級2組

白岩 学 (土浦一)  
 坂本 伸吾 (土浦一)  
 阿部 了 (霞ヶ浦)  
 高嶋 康夫 (土浦一)

C級	D級 (A級の敗者)	E級1組 (B1の敗者)
優勝 井上 一馬 (海 洋)	小原 覚 (水戸一)	永木 洋 (茨 城)
2位 加藤 大輔 (古河三)	鈴木 一弥 (茨 城)	工藤 恭弘 (水戸一)
3位 大槻 真裕 (銚田一)		
3位 大久保裕文 (水戸農)		

E級2組 (B2の敗者)	F級 (C級の敗者)
1位 萩原 哲也 (茨 城)	片根 聡洋 (海 洋)
2位 坂本 太郎 (竜崎一)	岩間 弘樹 (水戸一)

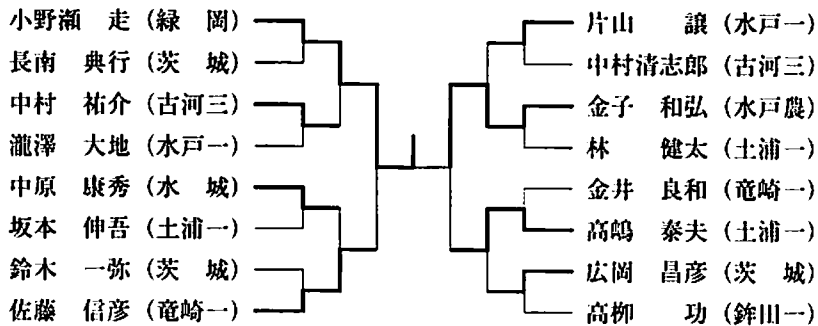
A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



秋季大会

秋季大会は平成13年11月9日(金)石岡市民会館において開催された。本大会の男子A級の上位4名、及び女子1名は、関東大会の出場権を得た。またさらに、決勝に進んだ小野瀬走(緑岡2年)と金子和弘(水戸農2年)の両名、及び女子の部で泉對直子(土浦一2年)は、全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権も同時に獲得した。

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)





A級		B級1組		B級2組	
優勝	小野瀬 走 (緑岡)	三村 祐介 (水戸一)	前島 崇宏 (水戸一)		
2位	金子 和弘 (水戸農)	前川 悠 (水城)	西尾 拓 (竜崎一)		
3位	佐藤 信彦 (竜崎一)	井上 一馬 (海洋)	木戸 孝明 (水戸一)		
3位	高嶋 泰夫 (土浦一)	野田 旭慧 (土浦一)	谷口 太一 (水城)		
C級 (A級の敗者)		D級1組 (Bの敗者)			
1位	滝澤 大地 (水戸一)	菊池 成則 (中央)			
2位	泉對 直子 (土浦一)	生駒 祥 (霞ヶ浦)			

### 第25回全国高等学校総合文化祭将棋選手権大会

平成13年8月4日(土)～5日(日)福岡県北九州市西日本総合展示場新館で行われた。団体は水戸一高、男子個人は小野瀬走(緑岡2年)、女子個人は泉對直子(土浦一2年)が参加した。泉對直子は、準優勝に輝いた。

団体	1回戦	水戸一高 ●	○ 藤枝明誠高 (静岡県)
男子個人	1回戦	小野瀬 走 ○	● 北川 馨 (九州大付高)
	2回戦	小野瀬 走 ●	○ 佐野 尚史 (岩手・釜石南高)
女子個人	順々決勝	泉對 直子 ○	● 藤井 洋子 (北海道・函館中部高)
	準決勝	泉對 直子 ○	● 鈴木 浩子 (北海道・函館白百合高)
	決勝	泉對 直子 ●	○ 中垣 望 (福井・仁愛女子高)

### 第14回全国高等学校将棋竜王戦

平成13年8月23日(木)～24日(金)福岡県太宰府市の第一経済大学都築貞枝記念体育館で行われた。本県代表の小野瀬走(緑岡2年)と第25回総合文化祭で全国2位に入賞した泉對直子(土浦一2年)が出場推薦され、本県は2名の参加である。

残念ながら2名とも予選リーグで敗退した。

### 第12回関東地区高等学校文化連盟将棋大会

関東大会が、平成13年12月23日(日)～24日(月)神奈川県湯河原「杉の宿」において開催された。男子は8都県32名によるスイス方式5回戦、女子は6都県18名によるスイス式5回戦が行われた。小野瀬走(緑岡2年)、金子和弘(水戸農2年)、佐藤信彦(竜ヶ崎一1年)、高嶋泰夫(土浦一2年)、泉對直子(土浦一2年)が参加した。小野瀬走が4勝1敗で5位、泉對直子が3勝2敗で6位に入賞した。

### 第10回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

平成14年1月25日(金)～27日(日)大阪府大阪キャッスルホテルにおいて開催された。本県より小野瀬走(緑岡2年)と金子和弘(水戸農2年)、泉對直子(土浦一2年)が参加した。小野瀬走が男子の部で全国5位、泉對直子が女子の部で全国3位に入賞した。

## 平成14（2002）年度

### 平成14年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会長	森山勝一（太田一）	監査	諸岡正弘（海洋）
副会長	笹島三郎（茨城）	同	江幡收一（霞ヶ浦）
同	植田泰史（水戸一）	同	会沢力（水戸一）
事務局	矢須雅進（竜崎一）		
同	藤崎正輝（水戸農）	全国会長	森山勝一（太田一）
同	青木睦人（日立一）	全国事務局	青木睦人（日立一）
書記	松田克教（水城）	同	藤崎正輝（水戸農）
同	横山昭彦（日立工）		
会計	深谷浩一（中央）		
同	林直樹（結城二）		

### 平成14年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校（21校）

日立一	総和	太田一	海洋	水戸一	緑岡	水戸農	土浦一
鉾田一	竜ヶ崎一	下妻一	古河三	境	茨城	日立工	中央
結城二	水城	霞ヶ浦	茨城東	鬼怒商			

### 春季大会

平成14年度春季大会は、第26回全国高等学校総合文化祭将棋部門（第37回全国高等学校将棋選手権茨城県代表決定戦）の県予選である。平成14年5月11日(土)に水戸一高・知道会館で行われた。男子団体Aの参加校は8校、団体Bは4校、男子個人戦Aは21名、個人戦Bは63名で、女子個人の部3名、総勢87名の申込数であった。団体Aの優勝校茨城（広岡昌彦2年、清水知道1年、古田土英明1年）及び男子個人戦優勝の小野瀬走（緑岡3年）が8月8日(休)～9日(金)に神奈川県横浜市の県立かながわ労働プラザで行われた全国大会の出場権を得た。

	団体戦A	団体戦B	団体戦C（敗者戦）
優勝	茨城	竜崎一	日立一
2位	土浦一	霞ヶ浦	水城
3位	水戸一	古河三	日立工A
3位	水戸農		日立工B

	個人戦A	個人戦B級1組	個人戦B級2組
優勝	小野瀬走（緑岡）	海野光宏（茨城）	井上一馬（海洋）
2位	金子和弘（水戸農）	勝俣賢司（結城二）	木戸孝明（水戸一）
3位	高柳功（鉾田一）	小川永格（境）	立川誠一（茨城）
3位	北村守（水戸一）	廣瀬将貴（鬼怒商）	松尾健一（水城）

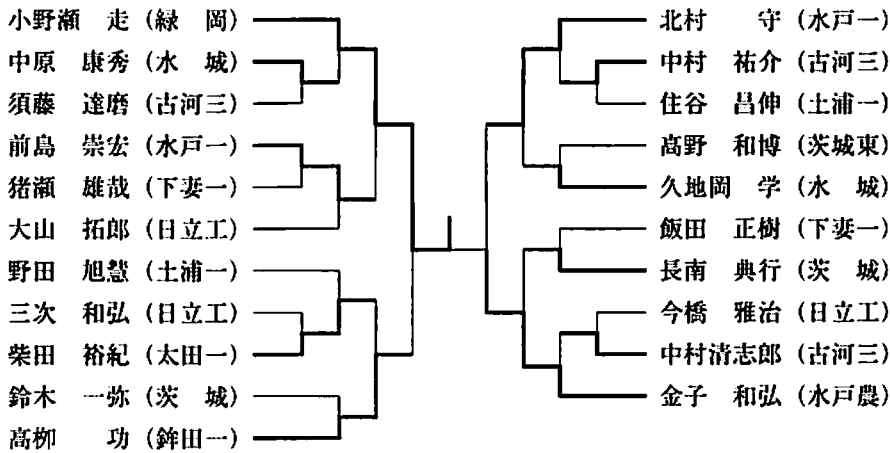
個人戦C級（Aの敗者）

- 1位 泉對 直子（土浦一）  
 2位 野田 旭慧（土浦一）  
 3位 今橋 雅治（日立工）  
 3位 猪瀬 雄哉（下妻一）

個人戦D級1（B1敗者） 個人戦D級2（B2敗者）

- 小野崎正人（水戸農） 黒川 常身（茨 城）  
 加藤 大輔（古河三） 坂本 太郎（竜崎一）  
 長尾 哲史（土浦一） 海老原佑太（竜崎一）  
 入野 将浩（水戸農） 大久保泰明（水戸農）

男子個人Aのトーナメント表



夏季大会（第15回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦）

平成14年6月5日(木)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加者は、申し込み段階で123名だった。A級は、春季大会に続いて小野瀬走（緑岡3年）が制した。全国大会は平成14年8月22日(木)～23日(金)に福岡県第一経済大学で行われる、第15回全国高等学校将棋竜王戦に駒を進めた。県予選の結果は下記の通りである。

A 級

- 優勝 小野瀬 走（緑 岡）  
 2位 泉對 直子（土浦一）  
 3位 前島 崇宏（水戸一）  
 3位 北村 守（水戸一）

B 級 1 組

- 片山 譲（水戸一）  
 三村 祐介（水戸一）  
 木戸 孝明（水戸一）  
 海野 光宏（茨 城）

B 級 2 組

- 小原 覚（水戸一）  
 西尾 拓（竜崎一）  
 味岡 諒（水 城）  
 安島 清武（茨 城）

C 級 1 組

- 優勝 和久 大蔵（茨 城）  
 2位 生駒 祥（霞ヶ浦）  
 3位 樺木 信二（霞ヶ浦）  
 3位 小林 祐樹（鉾田一）

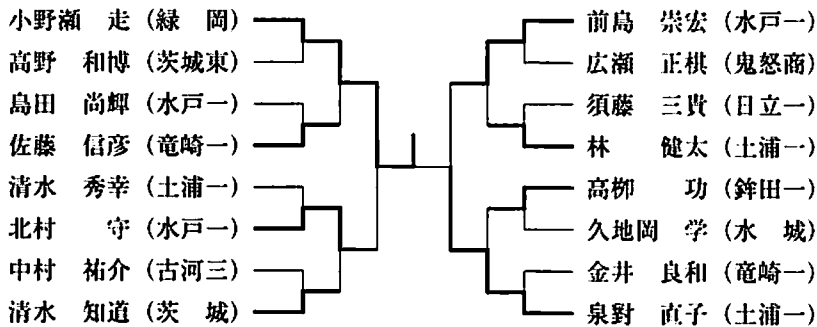
C 級 2 組

- 前島 肇（鉾田一）  
 栗島 真澄（結城二）  
 鈴木 利紘（日立工）  
 手島 悠吾（水戸一）

D級 (A級の敗者)	E級1組 (B1の敗者)	E級2組 (B2の敗者)
1位 金子 和弘 (水戸農)	野口 光佑 (茨城)	広岡 昌彦 (茨城)
2位 長南 典行 (茨城)	岩石 和幸 (古河三)	菅原 彬徳 (日立一)

F級1組 (C1の敗者)	F級2組 (C2の敗者)
1位 室崎 隆宏 (古河三)	宮田 和也 (水戸農)
2位 北条 佑一 (日立工)	川崎 葵太 (太田一)

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



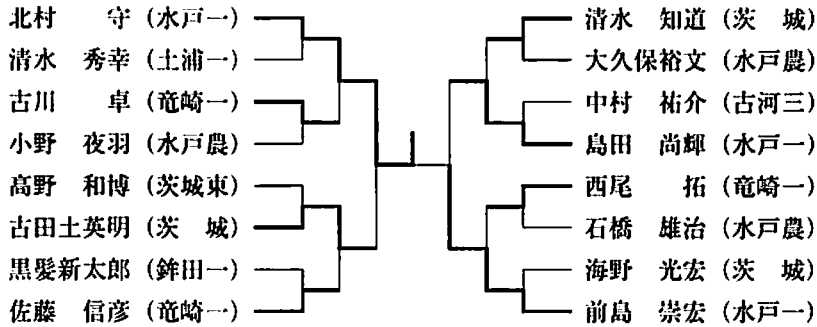
秋季大会

秋季大会は平成14年11月11日(月)石岡市市民会館において開催された。本大会のA級の上位4名は、12月15日に山梨県甲府市で行われる関東大会の出場権を得た。またさらに、決勝に進んだ北村守(水戸一1年)と前島崇宏(水戸一2年)の両名は、平成14年2月6日(木)~8日(土)に千葉県の東横イン・千葉ポートスクエアで行われる第11回全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権も同時に獲得した。

A級	B級1組	B級2組
優勝 北村 守 (水戸一)	手島 悠吾 (水戸一)	伏見誠一郎 (茨城)
2位 前島 崇宏 (水戸一)	齋藤 大貴 (竜崎一)	上石 卓矢 (水戸一)
3位 島田 尚輝 (水戸一)	富田 喬行 (古河三)	久地岡 学 (水城)
3位 古田土英明 (茨城)	大石 信雄 (土浦一)	樺木 信二 (霞ヶ浦)

C級 (A級の敗者)	D級 (B1・B2の敗者)
1位 広岡 昌彦 (茨城)	海老原佑太 (竜崎一)
2位 柴田 裕紀 (太田一)	高橋 秀幸 (古河三)

### A級のトーナメント表（ベスト16より）



### 第13回関東地区高等学校文化連盟将棋大会

関東大会が、平成14年12月15日(日)山梨県甲府市の山梨県立甲府第一高校において開催された。男子は8都県32名によるトーナメント方式、女子は7都県23名によるスイス式5回戦が行われた。

#### 男子

- 1回戦 島田 尚輝 (水戸一) ● ○杉村 宏之 (東京・早稲田実業)  
 古田土英明 (茨城) ● ○井上 恵一 (山梨・甲府南)  
 前島 崇宏 (水戸一) ● ○高木 晋 (東京・慶應義塾)  
 北村 守 (水戸一) ● ○寺師 真樹 (埼玉・川越)

- 女子 萩野谷早紀 (水戸一) 2勝3敗  
 秋山 沙織 (水戸一) 4敗1分

### 第11回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

平成15年2月6日(木)～8日(土)に、千葉県千葉市・東横イン・千葉ポートスクエアにおいて開催された。男子は、本県より前島崇宏 (水戸一2年) 北村守 (水戸一1年) が参加した。両名とも予選リーグ1勝2敗で惜しくも予選は通過できなかった。女子は、本県より萩谷友美 (水戸一1年)、萩野谷早紀 (水戸一1年)、秋山沙織 (水戸一1年) の3名が参加したが、秋山沙織が1勝2敗、萩谷友美と萩野谷早紀の両名は2敗であり、全員とも本戦進出はならなかった。

## 平成15（2003）年度

### 平成15年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会長	松崎 武久（日立一）	書記	横山 昭彦（日立工）
副会長	植田 泰史（水戸一）	会計	林 直樹（結城二）
同	諸岡 正弘（海洋）	監査	笹島 三郎（茨城）
事務局	青木 睦人（日立一）	同	会 沢 力（水戸一）
同	藤崎 正輝（水戸農）	同	江 幡 收一（霞ヶ浦）

### 平成15年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校（19校）

日立一	太田一	海洋	水戸一	緑岡	水戸農	茨城東	銚田一
土浦一	竜ヶ崎一	結城二	下妻一	境	古河三	茨城	水城
霞ヶ浦	土浦日大	江戸川学園	取手				

### 春季大会

平成15年春季大会は、第27回全国高等学校総合文化祭将棋部門の県予選である。平成15年5月11日(日)に水戸一高知事館で行われた。男子団体Aの参加校は9校、団体Bは7校、男子個人戦Aは23名、個人戦Bは53名、また女子の部では6名が参加し、総勢134名の申込数であった。団体Aの優勝校江戸川学園取手（佐藤大輔1年、谷本尚登1年、藤原直也1年）及び男子個人戦優勝の清水知道（茨城2年）、女子の部では優勝した泉野貴子（江戸川取手1年）が8月9日(土)～10日(日)に福井県大野市の大野有終会館で行われる全国大会の出場権を得た。

	団体戦A	団体戦B	団体戦C（敗者戦）
1位	江戸取	土浦一	竜崎一
2位	土浦一	茨城	日立一
3位	茨城	水戸一	水城
3位	水戸一	江戸取	江戸取

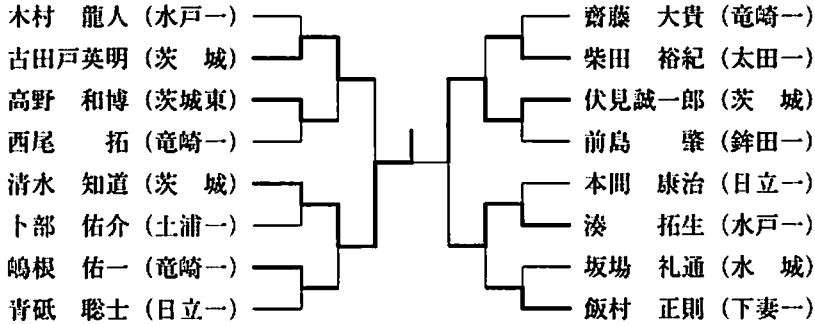
	個人戦A級	個人戦B級1組	個人戦B級2組
1位	清水 知道（茨城）	松澤 善仁（土日大）	三村 祐介（水戸一）
2位	伏見誠一郎（茨城）	稲葉 俊太（土浦一）	秋山 亮（竜崎一）
3位	古田土英明（茨城）	石橋 雄治（水戸農）	渡辺雄太郎（土浦一）
3位	湊 拓生（水戸一）	高濱 慎平（茨城）	櫻村 潤（海洋）

	個人戦C級（Aの敗者）	個人戦D級1組（Bの敗者）
1位	加藤 宏人（水戸農）	入野 将浩（水戸農）
2位	大久保裕文（水戸農）	室崎 隆浩（古河三）

個人戦D級2組 (Bの敗者)

- 1位 住谷 昌伸 (土浦一)  
2位 深井 和也 ( 境 )

個人A級のトーナメント表 (ベスト16より)

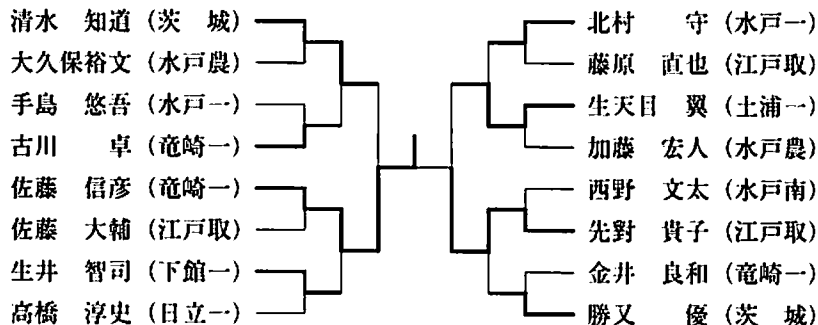


夏季大会 (第16回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦)

平成15年6月7日(土)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加者は100名で、女子の参加は春季大会優勝の泉對貴子(江戸川取手)1名であった。A級は佐藤信彦(竜ヶ崎一)が優勝し、8月21日～22日に福岡県第一薬科大学で行われた全国大会に出場した。県予選の結果は下記の通りである。

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>A級</b></p> <p>1位 佐藤 信彦 (竜崎一)<br/>2位 泉對 貴子 (江戸取)<br/>3位 清水 知道 (茨 城)<br/>3位 生天目 翼 (土浦一)</p>  | <p><b>B級1組</b></p> <p>谷本 尚登 (江戸取)<br/>立川 誠一 (茨 城)<br/>嶋根 佑一 (竜崎一)<br/>竹内 将人 (土浦一)</p> | <p><b>B級2組</b></p> <p>齋藤 大貴 (竜崎一)<br/>西尾 拓 (竜崎一)<br/>渡辺 純 (東牛久)<br/>三枝 康成 (水戸一)</p> |
| <p><b>B級3組</b></p> <p>1位 卜部 佑介 (土浦一)<br/>2位 高橋 満博 (東牛久)<br/>3位 池島 雄太 (水 城)<br/>3位 藤田 翼 (東牛久)</p> | <p><b>C級</b></p> <p>大内 雅文 (土浦一)<br/>渡邊雄太郎 (土浦一)<br/>石田 啓裕 (東牛久)<br/>後藤 和也 (竜崎一)</p>   | <p><b>D級</b></p> <p>北村 守 (水戸一)<br/>清水 秀幸 (土浦一)</p>                                  |
| <p><b>E級1組</b></p> <p>1位 黒川 常身 (茨 城)<br/>2位 住谷 昌伸 (土浦一)</p>                                      | <p><b>E級2組</b></p> <p>鈴木 一弥 (茨 城)<br/>長尾 哲史 (土浦一)</p>                                 | <p><b>E級3組</b></p> <p>國枝俊太郎 (江戸取)<br/>海老原裕太 (竜崎一)</p>                               |
| <p><b>F級</b></p> <p>1位 櫻村 潤 (海 洋)<br/>2位 三宅 伸幸 (古河三)</p>   |   |   |

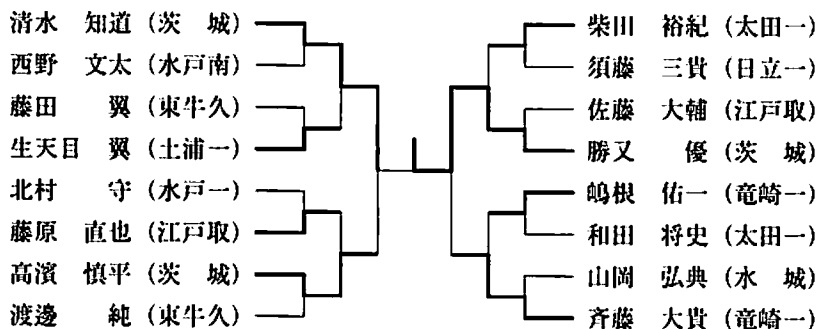
個人A級のトーナメント表（ベスト16より）



秋季大会

秋季大会は平成15年11月10日(月)石岡市市民会館において開催された。本大会のA級の上位4名及び女子の部参加の3名は12月21日(日)に千葉県柏市で開催された第14回関東高等学校文化連盟将棋専門部選手権大会に出場する。また男子決勝に進んだ勝又優(茨城1年)と清水知道(茨城2年)及び女子の部優勝者泉對貴子の3名は平成16年2月13日～15日に広島県の広島プリンスホテルで行われた第12回全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権も同時に獲得した。

個人A級のトーナメント表（ベスト16より）



A級

- 1位 勝又 優 (茨城)
- 2位 清水 知道 (茨城)
- 3位 齋藤 大貴 (竜崎一)
- 3位 高濱 慎平 (茨城)

B級1組

- 大内 雅史 (土浦一)
- 竹内 将人 (土浦一)
- 後藤 和也 (竜崎一)
- 長尾 哲史 (土浦一)

B級2組

- 立川 卓 (江戸取)
- 稲葉 俊太 (土浦一)
- 渡邊雄太郎 (土浦一)
- 小田部 大 (水城)

C級

- 1位 秋山 亮 (竜崎一)
- 2位 卜部 佑介 (土浦一)
- 3位 中山 博喜 (水戸一)
- 3位 加藤 宏人 (水戸農)

D級

- 松澤 喜仁 (土日大)
- 海老原佑太 (竜崎一)
- 薬袋 和明 (江戸取)
- 坏 和貴 (太田一)



## 女子の部

- 1位 泉對 貴子 (江戸取)
- 2位 萩野谷早紀 (水戸一)
- 3位 秋山 沙織 (水戸一)

### 第27回全国高等学校総合文化祭 (第39回全国高等学校将棋選手権)

平成16年8月9日(土)～10日(日)の両日、福井県大野市大野有終会館で行われた。本県からは、男子個人戦に清水知道(茨城2年)、男子団体戦に私立江戸川学園高等学校(佐藤大輔1年、谷本尚登1年、藤原直也1年)、女子個人戦には泉對貴子(江戸川取手1年)が出場した。泉對貴子は全国大会でベスト8に入賞した。

- 男子団体戦1回戦 江戸川学園取手 ○ ● 岩手 (岩手県)
- 2回戦 江戸川学園取手 ● ○ 県立伊勢 (三重県)
- 男子個人戦1回戦 清水 知道 ● ○ 明石 和博 (福島 県立小名浜)
- 女子個人戦4回戦 泉對 貴子 ○ ● 林 多美子 (岡山 県立倉敷中央)
- 準々決勝 泉對 貴子 ● ○ 小林 真理 (埼玉 熊谷市立女子)

### 第14回関東高等学校文化連盟将棋大会

平成15年12月21日(日)に千葉県さわやか県民プラザで開かれた。女子の泉對貴子(江戸川学園取手1年)は5戦全勝で優勝の栄冠に輝いた。

### 男子本戦トーナメント

- 1回戦 勝又 優 (茨城・茨城1位) ● ○ 田島 弘基 (神奈川 栄光学園)
- 清水 知道 (茨城・茨城2位) ○ ● 若林 一陽 (栃木 真岡)
- 斉藤 大貴 (竜崎一・茨城3位) ● ○ 岩田 成雄 (群馬 市伊勢崎)
- 高濱 慎平 (茨城・茨城4位) ● ○ 芦田 悠 (東京 麻布)
- 2回戦 清水 知道 (茨城・茨城2位) ● ○ 森本 泰介 (神奈川 慶應湘南藤沢)

### 女子スイス式トーナメント

- 5回戦 泉對 貴子 ○ ● 高崎 真子 (神奈川 慶應湘南藤沢)

### 第12回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

平成16年2月13日～15日に広島県の広島プリンスホテルで行われた。本県から勝又優(茨城1年)と清水知道(茨城2年)及び女子の部優勝者泉對貴子の3名が参加した。予選は4人1組の2勝通過2敗失格形式であった。男子の清水知道は2勝1敗で予選通過したが、勝又優は2敗で予選失格した。女子の泉對貴子は2勝で予選通過し、準々決勝まで駒を進めた。

- 男子本戦1回戦 清水 知道 ● ○ 端山 徹也 (神奈川 鎌倉学園)
- 女子本戦3回戦 泉對 貴子 ○ ● 安藤あゆみ (大分 大分雄城台)
- 準々決勝 泉對 貴子 ● ○ 景山 彩璃 (鳥根 出雲)

# 平成16 (2004) 年度

## 平成16年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会役員

会長	松崎武久 (日立一)	書記	横山昭彦 (日立工)
副会長	植田泰史 (水戸一)	監査	笹島三郎 (茨城)
同	諸岡正弘 (海洋)	同	江幡收一 (霞ヶ浦)
事務局	青木睦人 (緑岡)		
同	藤崎正輝 (水戸農)		
同 (会計)	林直樹 (結城二)		

## 平成16年度茨城県高等学校文化連盟将棋部会加盟校 (21校)

日立一	日立商	太田一	水戸一	緑岡	水戸農	茨城東	土浦一
鉾田一	竜ヶ崎一	下館一	牛久栄進	古河三	取手二	境	結城二
茨城	水城	土浦日大	江戸川学園取手		清真学園		

## 春季大会

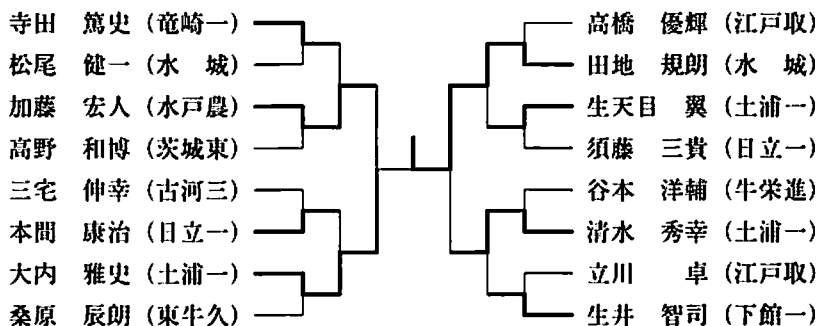
平成16年度春季大会は、第28回全国高等学校総合文化祭将棋部門 (第40回全国高等学校将棋選手権茨城県代表決定戦) の県予選である。平成16年5月9日(日)に水戸一高知道会館で行われた。男子団体Aの参加校は9校、団体Bは4校、男子個人戦Aは22名、男子個人戦Bは60名、女子個人戦3名で、総勢121名の申込数であった。団体の優勝校私立江戸川学園取手高等学校 (佐藤大輔2年、谷本尚登2年、藤原直也2年) 及び男子個人戦優勝の田地規朗 (水城1年)、さらに女子個人優勝の泉對貴子 (江戸川学園取手2年) が平成16年7月30日(金)~31日(土)に徳島県阿南市の阿南市文化会館で行われる全国大会の出場権を得た。

	団体戦A級	団体戦B級	団体戦C級 (敗者戦)
優勝	江戸取	江戸取A	竜崎一
2位	茨城	竜崎一	太田一
3位	水城	江戸取B	東牛久
3位	水戸一	土浦一	日立一

	個人戦A級	個人戦B級1組	個人戦B級2組
優勝	田地規朗 (水城)	長尾哲史 (土浦一)	渡辺雄太郎 (土浦一)
2位	大内雅史 (土浦一)	荒瀬貴裕 (土浦一)	太田和宏 (江戸取)
3位	清水秀幸 (土浦一)	石川龍太郎 (土浦一)	葉袋和明 (江戸取)
3位	加藤宏人 (水戸農)	坪和貴 (太田一)	石田啓祐 (東牛久)

個人戦C級（Aの敗者）	個人戦D級（Bの敗者）	個人戦D級（Bの敗者）
1位 梅津慎太郎（江戸取）	松澤 善仁（土日大）	亀山 俊（水戸一）
2位 須藤 三貴（日立一）	植木 俊一（竜崎一）	竹中 淳（竜崎一）
3位 高野 和博（茨城東）	入野 将浩（水戸農）	笹嶋 利紀（茨城）
3位 谷本 洋輔（牛栄進）	高井 康勢（江戸取）	大津 健一（茨城）

男子個人Aのトーナメント表（ベスト16より）



夏季大会（第17回全国高等学校将棋竜王戦茨城県代表決定戦）

平成16年6月7日(月)に茨城県民文化センター分館にて行われた。参加者は108名で女子の参加2名であった。A級は勝又優（茨城2年）が制し、平成16年8月19日(金)～20日(土)に福岡県第一経済大学で行われた第17回全国高等学校将棋竜王戦に駒を進めた。県予選の結果は下記の通りである。

A級	B級1組	B級2組
優勝 勝又 優（茨城）	藤原 直也（江戸取）	和田 将史（太田一）
2位 田地 規朗（水城）	渡辺雄太郎（土浦一）	宮本 尚（東牛久）
3位 熊倉 紫野（古河三）	天田 靖史（土浦一）	稲葉 俊太（土浦一）
3位 湊 拓生（水戸一）	亀山 俊（水戸一）	海老原佑太（竜崎一）

C級

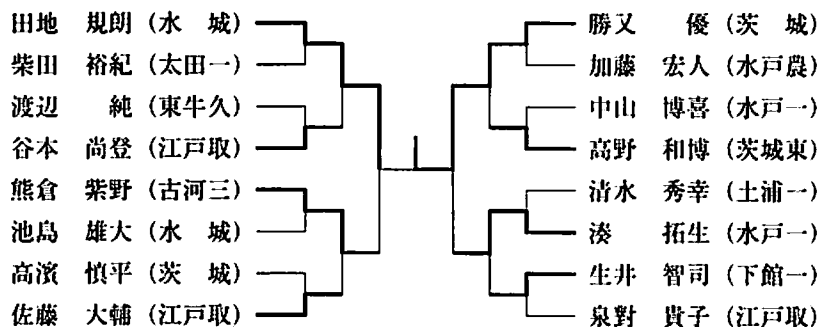
優勝 玉石 直也（清真）
2位 植木 俊一（竜崎一）
3位 松本 直剛（竜崎一）
3位 鈴木 裕也（古河三）

D級（A級の敗者）	E級1組（B1の敗者）	E級2組（B2の敗者）
1位 斉藤 大貴（竜崎一）	秋山 亮（竜崎一）	寺田 篤史（竜崎一）
2位 生天目 翼（土浦一）	桜井 大樹（竜崎一）	小田部 大（水城）
3位 大内 雅史（土浦一）	上野 啓介（茨城）	木村 龍人（水戸一）
3位 坂場 礼通（水城）	皆川 尚広（茨城）	別所 史治（水戸一）

F級1組 (C1の敗者)

- 1位 栗山 尚 (土浦一)
- 2位 関 翔太 (古河三)
- 3位 吉田 理沙 (水戸一)
- 3位 後藤 大祐 (太田一)

A級のトーナメント表 (2回戦ベスト16より)



秋季大会

秋季大会は平成16年11月9日(火)に、石岡市民会館において開催された。本大会のA級の上位4名及び女子の部参加の3名は12月19日(日)に東京都立日比谷高等学校で開催される第15回関東高等学校文化連盟将棋専門部選手権大会に出場する。さらに、男子優勝者の田地規朗(水城1年)が学校の事情のために全国新人大会を辞退したため、男子2位佐藤大輔(江戸川学園取手2年)と3位藤原直也(江戸川学園取手2年)の両名と、女子の部優勝者泉對貴子(江戸川学園取手2年)の計3名は平成17年1月27日～29日に宮城県のホテルニュー水戸屋で行われる第13回全国高等学校文化連盟将棋新人大会の出場権も同時に獲得した。

A級	B級1組	B級2組
優勝 田地 規朗 (水 城)	上野 啓介 (茨 城)	瀬戸 息吹 (江戸取)
2位 佐藤 大輔 (江戸取)	都甲 貴之 (江戸取)	濱本創一郎 (江戸取)
3位 藤原 直也 (江戸取)	鮫原 皓貴 (竜崎一)	新井 諒 (太田一)
3位 柴田 裕紀 (太田一)	太田 和宏 (江戸取)	佐藤 絃一 (水戸一)
C級 (A級の敗者)	D級1組 (B1の敗者)	D級2組 (Bの敗者)
1位 熊倉 紫野 (古河三)	木村 龍人 (水戸一)	入野 将浩 (水戸農)
2位 泉對 貴子 (江戸取)	植木 俊一 (竜崎一)	久保 貴之 (古河三)

女子

- 1位 泉對 貴子 (江戸取)
- 2位 美馬 香織 (土日大)
- 3位 吉田 理沙 (水戸一)



# この10年間の栄光の選手

## 高校将棋の思い出

友部東養護学校 前島 祐介

(高校在学 平成7年～9年)

早いもので私が高校将棋選手権茨城県予選に出場して8年もの月日が流れた。私にとって、高校3年間の将棋に関する思い出は、とても素晴らしいものであった。高校将棋茨城県大会5連覇という結果を残せたことは今でも信じられない。その中でも、今でも強く印象に残っている対局があるので、振り返って見たいと思う。

その対局は平成8年度の高校竜王戦茨城県予選の決勝である。対戦相手は大洗高校の久保木君。久保木君とは、その2ヶ月前の春季高校将棋選手権県予選の決勝でも対戦していた。そのときは私が勝利し、初優勝をしていた。久保木君としては「借りを返してやりたい」と必勝の気持ちで対局に臨んだと思われる。

戦形は居飛車穴熊VS中飛車穴熊という相穴熊戦へと進行していった。中盤過ぎに久保木君にミスがあり、私の優勢で対局は進んでいった。そのような時こそ気を締めなければならないのに、楽観していたせいか、私に油断が生じてしまった。久保木君が放った自陣飛車の真の狙いが理解できず、私は甘い一手を指してしまった。すかさず久保木君は大きな駒音をたてて、打ったばかりの飛車で私の角を取った。私は一瞬、何が起こったか理解できなかった。しかし数秒後に私は、自分がとんでもないミスをしてしまったことに気が付いた。角の丸損である。その瞬間、冷や汗が背中を流れたような感覚に陥った。まさに背筋が凍りついたようだった。大きな駒損をして、負けを覚悟したが、それまでの形勢の差が大きかったようで、最後はなんとか勝利することができた。

薄氷を踏む思いで県代表になった私だが、いざ全国大会に出場してみると、1回戦敗退という残念な結果になってしまった。自分のレベルの低さ、全国レベルの層の厚さを痛感させられた。全国大会では成績を残すことができなかったが、前夜祭で他県の選手との交流ができたことは大変、意義深いものになった。

将棋に魅了されなければ、おそらく一生出会うことが無いはずの同年代の高校生同士が「将棋」という伝統のあるゲームを通すことによって出会い、すぐに理解しあうことができ、友人になれる。これは素晴らしいことだと思った。まさに「棋は対話」である。私は高校卒業後、積極的にアマチュアの大会に参加しているが、未だに思い通りの成績を挙げられないでいる。生活環境が変わり、将棋の研究時間を十分に確保出来ないでいるというのが大きな理由である。しかし、このような時こそ一念発起し、高校時代のような情熱を持ち続けなければならないと考える。

最後に当時、お世話になった先生方に感謝し、高校将棋連盟の更なる発展を望み、筆を置かせていただきます。

## 高校時代を振り返って

守谷高等学校 佐々木 浩

(高校在学 平成10年～12年)

今ふり返ってみると、高校時代の私の成績は出来過ぎだった気がする。県大会では7回優勝し、全国大会には6回出場した。結果だけ見ると私の独壇場のように感じるが、決勝戦での大逆転劇や、1回戦で相手が即詰みを逃しての辛勝は自玉の詰みが見えた瞬間、凍りついたりしたり、内容的にはかなり危なっかしいものだった。どの大会も印象強く残っているが、その中からいくつか振り返ってみたい。

まず、初めての大会である平成10年度春季大会から。大会の日程を知ったのが大会前日で申込期限も過ぎてしまったが、何とか参加させていただいた。決勝の相手は水戸農業高校の野澤和人さんで、野澤さんの四間飛車対私の右四間飛車穴熊という戦型になった。振り返って驚いたのは私の指し手の早さである。40数手目までノータイムで、20分の持ち時間にも関わらず相手玉を詰ました時も4分残っていた。今では、すっかり長考派となった私にもこんな若い時代があったのですね。同年の高校竜王戦の全国大会でも何故かベスト8まで残ることができ、この頃は怖いもの知らずで一番伸び伸びと指せていた感じがする。

続いて2年生の時の平成11年度の春季大会。ここも何とか決勝戦まで勝ち上がり、相手は茨城高校の今泉秀巳さん。先に述べた平成10年度の春季大会の準決勝では私が勝利を得ることが出来たが、同年の秋季大会準々決勝では負かされ悔しい思いをしたため、リベンジに気合いが入った。戦型は私の右四間飛車銀冠対今泉さんの四間飛車。中盤有利になったものの秒読みで幾度も間違え、逆転され必敗形になった。自分の弱さに呆れ返ったが、一つだけ逆転の筋があった。部分的な局面を言うと9六にある香を8六の金か9一の香のどちらかで取る所なのだが、金で取れば私の負けで、香で取れば逆転となる。私は秒読みの中、「香で取れ香で取れ・・・」と必死に念じた。そして今泉さんは9六の香をつまみ、9一の香車で取った。「念力が通じた。」私は心の中で叫び、9四銀と打って大逆転勝ちを果たした。今泉さんには申し訳ない勝ち方になってしまったが、最後まで諦めなかった執念が実を結んだ。

続いて行われた高校竜王戦の県大会でも運良く優勝し、第12回全国高校竜王戦への出場権を得た。全国大会では前年のベスト8以上を目標にしていたが、予選リーグ2連敗であえなく敗退。しかし、敗者戦トーナメントを勝ち上がり、敗者戦決勝という形で2日目に進出した。そして翌日、予選リーグは気負い過ぎの感じがしたので、こちらは気楽に指そうと決め、リラックスした状態で指せた。後手番だったが序盤で千日手になり、先後入れ替えて指し直し。気楽さが功を奏したのか、この一局を勝利。表彰式で谷川先生から置き駒を直接渡されたのは、忘れられない思い出となった。

この勢いで翌年も、と行きたかったがそうは甘くなかった。第13回高校竜王戦県大会。準決勝で土浦一高の今野将生君に敗退。万全の調整で臨んだ。だが、油断や慢心があったのも事実だ。本当の敗着は指し手よりも気の持ち方にあった。油断大敵、手痛い敗戦だったがこの言葉の真の意味を身をもって学んだ。

同年秋、本来なら引退だが、関東大会へ臨むべく秋季大会へ出場した。下級生への嫌がらせではないが。優勝で有終の美は飾れたが、関東大会では2回戦で逆転負けを食らい、私の高校将棋生活は終わりを告げた。

実力がないにも関わらず、これだけの成績を残せたのは奇跡的である。だが、高校時代の3年間、純粹な気持ちで将棋に取り組むことは出来たと思う。高校を卒業してからは、すっかり泣かず飛ばずだが、この頃の気持ちを忘れずに頑張っていきたい。最後になりましたが、お世話になった方々や応援して下さった方々、本当にありがとうございました。

## 高校3年間の将棋を通して私が得たもの

土浦第一高等学校 泉 對 直 子

(高校在学 平成12~14年度)

高校3年間の将棋活動を振り返ったとき、一番心に浮かんでくるのは、やはり全国大会である。私は、県大会で優勝し、全国大会に出場した。全国大会では準優勝や3位など何回か入賞したが、私にとってそれはあまり重要なことではなかった。もちろん入賞すればうれしかったのだが。しかし、一局一局を大切にし、後悔しないようにするという事に重点を置いてきた。これは一手一手を慎重に指すということでもある。たった一手で優劣が大きく変わることもあるからだ。どんなに自分が不利になっても、つらい状況になっても、勝ちを信じて最善を尽くさなければいけない。一瞬でも諦めたらそこで負けなのである。これには最後まで粘るといふ強い精神力がある。全国大会という大舞台に何度も参加し、絶対に負けられない将棋を数え切れないほど指したことで、私が出たもののひとつにこの精神力があると思う。

このほかに私が出たものは、友達である。全国大会には、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地からたくさんの人達が集まってくる。試合中はみんな勝たなければいけないライバルだが、試合が終われば同じ将棋好きの仲間である。試合が終わったその日の夜は、自然とみんなが集まって、朝まで大好きな将棋を指す。もちろん大会自体も楽しかったが、みんなでわいわいと指したこの夜の将棋が、私にとっては忘れられない最高の思い出となっている。そして、こうやって得たたくさんの友達は今でもとても仲が良く、しょっちょう一緒に遊んでいる。同じ将棋が好きだということを通じるものがあるかもしれない。

大会だけでなく、もちろん普通の学校での部活動も大切な思い出である。先輩がおもしろい人達ばかりで毎日部活動に行くのが楽しみだった。先輩のお陰で将棋が大好きになったと言っても過言ではない。先輩が卒業した後、私は全国高等学校将棋選手権大会で準優勝した。そのとき、先輩たちから「おめでとう。」と電話があり、感動したのを覚えている。こういうすばらしい先輩も、私が出たもののひとつであると思う。

この他にも将棋は私にたくさんのものを与えてくれた。将棋で得た粘り強さなどは普通の生活でも役に立っている。高校3年間で、全然勝てなくなり伸び悩んだことや、負けて悔しくて泣いたことなど、つらいこともあったが、将棋をやっていて本当によかったと心から思う。そして、これからも続けていきたい。



# 精選棋譜

## 平成7年度高等学校将棋精選譜

先手 磯貝 真一 (茨城高等学校 2年)		平成 7年度 高等学校将棋竜王戦 (夏季大会) 決勝戦			
後手 中嶋 啓 (境高等学校 2年)		平成7年6月16日			
		会場 県民文化センター分館			
		手数 104手にて後手 中嶋 啓の勝ち			
		戦型 先手四間飛車			
先 手	後 手	先 手	後 手	先 手	後 手
7六歩	3四歩	同 歩	1六歩		
6六歩	8四歩	1八歩	5八歩		
7八銀	6二銀	6六角	6九竜		
6八飛	5四歩	1一角成	5九歩成		
4八玉	4二玉	3九金	3三角		
3八玉	3二玉	同 馬	同 桂		
2八玉	5二金右	3五歩	5八と		
5八金左	1四歩	3四歩	5七と		
1六歩	7四歩	同 金	2四桂		
6七銀	8五歩	3三歩成	同 金		
7七角	4二銀	2五銀	3五角		
3八銀	5三銀左	2四銀	4六角		
5六歩	4二金上	3三銀不成	同 玉		
4六歩	6四歩	4六金	4八銀		
3六歩	9四歩	3五香	4二玉		
4七金	6五歩	3三角	4一玉		
3七桂	7三桂	3二角	同 玉		
4五歩	8六歩	5一角成	2一玉		
同 歩	6六歩	1三桂	1二玉		
同 銀	6五歩	2四桂	同 歩		
5七銀	7七角成	2三金	同 玉		
同 桂	8六飛	3三馬	1三玉		
5五歩	8九飛成	まで104手にて後手の勝			
6五桂	同 桂				
同 飛	6四歩				
6六飛	9九竜				
5四歩	同 銀				
5五歩	6五銀				
4六飛	1五歩				
5四桂	同 銀				

## 平成9年度高等学校将棋精選譜

先手 桑田 健二 (太田第一高等学校 1年)		平成9年度 高等学校将棋竜王戦 (夏季大会) 準決勝戦			
後手 野澤 和人 (水戸農業高等学校 1年)		平成9年11月12日			
		会場	石岡市民会館		
		手数	74手にて 後手 野澤 和人の勝ち		
		戦型	相矢倉		
先 手	後 手	先 手	後 手	先 手	後 手
7六歩	8四歩	7八銀	5七銀		
6八銀	3四歩	5五角	7二飛		
7七銀	6二銀	1一角成	3三桂		
2六歩	4二銀	5五香	6六香		
5八金右	5四歩	6八桂	同 香成		
5六歩	5二金右	同 金	8五桂		
2五歩	3三銀	8八玉	6八銀成		
6六歩	3二金	まで74手にて後手の勝ち			
6八玉	4一玉				
7八玉	7四歩				
7九角	9四歩				
1六歩	7三桂				
6七金	6四歩				
3八銀	6三銀				
2七銀	5五歩				
同 歩	4四銀				
8八角	6五歩				
同 歩	5五銀				
6八飛	6五桂				
6六歩	7七桂成				
同 角	6五歩				
同 歩	6六歩				
同 金	同 銀				
同 角	同 角				
同 飛	4四角				
5六飛	9九角成				
7七角	同 馬				
同 玉	4五角				
5七歩	5六角				
同 歩	3九飛				

# 平成10年度高等学校将棋精選譜

先手 土屋 元計 (土浦第一高等学校 2年)		平成10年度 高等学校将棋竜王戦 (夏季大会) 準決勝戦			
後手 海老沢 裕 (緑岡高等学校 2年)		平成10年6月9日			
		会場	県民文化センター分館		
		手数	87手にて 先手 土屋 元計の勝ち		
		戦型	相振り飛車		
先手	後手	先手	後手	先手	後手
7六歩	3四歩	同 銀	3五飛		
6六歩	4二飛	3八香	1五歩		
7五歩	6二玉	3五香	1六歩		
7八飛	8二銀	2七玉	2四角		
4八玉	7二玉	3六歩	4三桂		
3八玉	5二金左	3一飛	3五桂		
2八玉	9四歩	同 歩	4二角		
9六歩	4四歩	2一飛成	5四歩		
6五歩	6二金上	6六桂	4三銀		
3八銀	1四歩	6四歩	同 歩		
1六歩	3三角	6五歩	5五歩		
7六飛	2二飛	同 銀	6三香		
6八銀	2四歩	5四桂打	5一步		
5八金左	2五歩	4二桂成			
4六歩	3二銀	まで87手にて先手の勝ち			
4七金	4三銀				
6七銀	2六歩				
同 歩	同 飛				
2七銀	2四飛				
2六歩	3五歩				
3六歩	3四銀				
5六銀	2五歩				
同 歩	同 銀				
3五歩	1五歩				
同 歩	1六歩				
3七桂	1五香				
2五桂	1七歩成				
同 香	同 香成				
同 玉	2五飛				
2六歩	1六歩				

## 平成11年度高等学校将棋精選譜

先手 佐々木 浩 (守谷高等学校 2年)		平成11年度 高等学校将棋秋季大会 準決勝戦			
後手 加藤 崇 (土浦第一高等学校 2年)		平成11年11月12日			
		会場	石岡市民会館		
		手数	93手にて 先手 佐々木浩の勝ち		
		戦型	先手 四間飛車	後手 腰掛け銀	
先 手	後 手	先 手	後 手	先 手	後 手
7六歩	3四歩	4八金引	4七銀		
6六歩	8四歩	4二と	同 銀		
6八飛	6二銀	3七銀打	5七と		
4八玉	4二玉	4七銀	同 と		
7八銀	6四歩	7九金	9八竜		
7七角	6三銀	8八歩	6八歩		
3八玉	3二玉	5九飛	5八歩		
2八玉	1四歩	同 金上	同 と		
1六歩	5二金右	同 飛	6七と		
3八銀	5四銀	5五飛	同 角		
5八金左	9四歩	同 馬	5九飛		
9八香	7四歩	1一馬	3九銀		
4六歩	7三桂	1八玉	2八金		
6七銀	8五歩	同 銀	同 銀成		
5六銀	8一飛	同 玉	2二銀		
3六歩	9二香	2四桂	同 歩		
4七金	8六歩	2三銀			
同 歩	6五歩	まで93手にて先手の勝ち			
同 歩	7七角成				
同 桂	3三角				
6七飛	8六飛				
6四角	7五歩				
7三角成	7六歩				
6四歩	6六歩				
6九飛	7七歩成				
4五銀	同 銀				
同 歩	6七歩成				
6三歩成	4二金寄				
6五桂	8八飛成				
5三と	5五桂				

## 平成12年度高等学校将棋精選譜

先手 坂本 英彰 (土浦第一高等学校 2年)		平成12年度 高等学校将棋秋季大会 準決勝戦			
後手 小林 達朗 (水戸第一高等学校 2年)		平成12年11月6日			
		会場	石岡市民会館		
		手数	118手にて 後手 小林達朗の勝ち		
		戦型	後手 四間飛車 先手 急戦		
先手	後手	先手	後手	先手	後手
7六歩	3四歩	4三歩	4七歩成		
2六歩	4四歩	同玉	3六銀		
4八銀	4二飛	4八玉	5二飛		
5六歩	6二玉	3七歩	4五銀		
6八玉	7二銀	6八金直	5六銀		
9六歩	9四歩	6四桂	4七歩		
7八玉	5二金左	3九玉	2二飛		
5八金右	3二銀	同馬	同銀		
3六歩	7一玉	7二桂成	同金		
6八銀	8二玉	3二飛	5七銀右成		
2五歩	3三角	同金	同銀成		
5七銀左	5四歩	4九銀	4六桂		
1六歩	1二香	3五飛成	3八金		
1五歩	6四歩	同飛	同桂成		
3八飛	6三金	同玉	2五飛		
3五歩	同歩	同竜	同歩		
4六銀	4五歩	3二飛	2六歩		
3三角成	同銀	6四桂	同金		
3五銀	4九角	同馬	2七角		
2八飛	3四歩	3九玉	8八飛		
2四歩	同歩	5八金打	同成銀		
5九金引	6七角成	同銀	同飛成		
同玉	3五歩	7二飛成	同玉		
6五歩	同歩	6三金	8二玉		
3一角	6六銀	7一銀	9二玉		
5八玉	4一飛	9三金	同玉		
8六角成	4六歩	7五馬	8四歩		
3二角	4七歩成	8二銀打	9二玉		
同銀	4二飛	6五馬	7四桂		
2一角成	4六歩	まで118手にて後手の勝ち			

## 平成13年度高等学校将棋精選譜

先手 高嶋 泰夫 (土浦第一高等学校 2年)		平成13年度 高等学校将棋秋季大会 準決勝戦			
後手 金子 和弘 (水戸農業高等学校 2年)		平成13年11月 9日			
		会場	石岡市民会館		
		手数	88手にて 後手 金子和弘の勝ち		
		戦型	相横歩取り		
先 手	後 手	先 手	後 手	先 手	後 手
7六歩	3四歩	2六歩	同 竜		
2六歩	8四歩	4五角	2九竜		
2五歩	8五歩	6八玉	6四馬		
7八金	3二金	6五歩	同 馬		
2四歩	同 歩	6三角成	6二香		
同 飛	8六歩	6六歩	6七歩		
同 歩	同 飛	7八玉	6三香		
3四飛	8八角成	6五歩	6六桂		
同 銀	7六飛	6七玉	5八桂成		
7七銀	7四飛	1八角	8五角		
同 飛	同 歩	5六玉	4四桂		
2八飛	2二歩	6六玉	7五金		
8七歩	9四歩	5五玉	6五金		
5八金	7二銀	4五玉	2五竜		
8二角	7三角	にて88手にて後手の勝ち			
同 角成	同 銀				
4八銀	9五歩				
3六歩	9六歩				
同 歩	9八歩				
同 香	9九飛				
8八銀	8九飛成				
7九金	9八竜				
8九角	9六竜				
9七歩	3六竜				
3七銀	7六竜				
7七歩	8五竜				
4六銀	3八歩				
同 飛	2七角				
3七飛	5四角成				
6六歩	2五竜				

# 平成14年度高等学校将棋精選譜

先手 小野 瀬 走 (緑岡高等学校 3年)		平成14年度 高等学校将棋竜王戦 (夏季大会) 決勝戦 千日手指し直し局			
後手 泉 對 直子 (土浦第一高等学校 1年)		平成14年 6月 5日			
		会場 県立茨城県民文化センター分館			
		手数 111手にて 先手 小野瀬走の勝ち			
		戦型 相居飛車			
先 手	後 手	先 手	後 手	先 手	後 手
7 八金	3 四歩	6 五歩	9 九角成		
7 六歩	8 四歩	8 八銀	9 八馬		
2 六歩	4 四歩	7 四歩	7 二飛		
6 八銀	4 二銀	5 三歩	7 七歩		
5 六歩	5 四歩	同 銀右	同 桂成		
4 八銀	6 二銀	同 角	3 三銀		
6 九玉	3 二金	4 五桂	4 四銀		
3 六歩	4 一玉	5 二歩成	5 五香		
4 六歩	5 二金	5 六歩	4 五銀		
4 七銀	4 三金右	同 歩	2 二玉		
5 八飛	8 五歩	5 五歩	8 五桂		
5 五歩	同 歩	6 六角	9 七桂成		
同 飛	5 四歩	5 四歩	3 三金寄		
5 九飛	8 六歩	2 五桂	7 四飛		
同 歩	同 飛	3 三桂成	同 桂		
8 七歩	8 二飛	7 五歩	8 四飛		
4 八金	3 一玉	2 五桂	2 一桂		
7 九玉	7 四歩	4 一銀	2 四銀		
5 六銀	5 三銀右	3 二銀成	同 玉		
1 六歩	1 四歩	4 二金	2 二玉		
9 六歩	9 四歩	3 二金打	1 二玉		
3 七桂	6 四銀	1 三香	同 銀		
6 六歩	7 三桂	同 桂成	同 玉		
6 七銀引	7 五歩	2 二銀	1 二玉		
6 五歩	同 銀	2 一銀不成	1 三玉		
7 五歩	8 五桂	2 五桂			
6 六歩	7 七歩	まで111手にて先手の勝ち			
同 桂	同 桂成				
同 角	8 五桂				
8 六角	4 五歩				



## 平成15年度高等学校将棋精選譜

先手 泉對 貴子 (江戸川学園取手高等学校 1年)		平成15年度 高等学校将棋竜王戦 (夏季大会) 決勝戦			
後手 佐藤 信彦 (竜ヶ崎第一高等学校 3年)		平成15年6月5日			
		会場 県立茨城県民文化センター分館			
		手数 88手にて 後手 佐藤信彦の勝ち			
		戦型 先手カニカニ銀模様			
先手	後手	先手	後手	先手	後手
7六歩	8四歩	7六歩	9三角		
6八銀	3四歩	8四金	6六歩		
7七銀	6二銀	9三金	同 桂		
2六歩	4二銀	6四角	2二玉		
4八銀	5四歩	8二角成	6七歩成		
5六歩	3二金	6二飛	3二金		
7八金	4一玉	3八飛	2七角		
6九玉	7四歩	5九玉	3八角成		
2五歩	3三銀	同 金	6八飛		
3六歩	3一角	4九玉	6九飛成		
3七銀	4四歩	4八玉	5八と		
4六銀	5二金	3七玉	2九竜		
1六歩	4二角	4五銀	2六銀		
6六銀	4三金右	4六玉	4五歩		
5八飛	5三銀	まで88手にて後手の勝ち			
6五銀	6四歩				
7四銀	7二飛				
6三銀成	7六飛				
6六角	6五歩				
8四角	8六歩				
7七歩	7四飛				
9五角	8七歩成				
同 金	9四歩				
5三成銀	同 角				
8六角	7五銀				
6三銀	8四飛				
8五歩	8二飛				
7五角	同 角				
5二銀打	3一玉				
4三銀成	同 金				

## 平成16年度高等学校将棋精選譜

先手 田地 規朗 (水城高等学校 1年)		平成16年度 高等学校将棋竜王戦 (夏季大会) 準決勝戦			
後手 熊倉 紫野 (古河第三高等学校 1年)		平成16年 6月 7日			
		会場 県立茨城県民文化センター分館			
		手数 83手にて 先手 田地規朗の勝ち			
		戦型 先手筋違い角			
先 手	後 手	先 手	後 手	先 手	後 手
7六歩	3四歩	6二と	5七成桂		
2二角成	同 銀	3二金打	1二玉		
4五角	5二金左	2二金	同 玉		
3四角	6五角	3一銀	2一玉		
4八飛	7六角	2三角成	4八銀		
7八銀	6四歩	同 金	同 成桂		
3八銀	6三金	同 玉	5七金		
5六角	7四歩	同 玉	6五桂		
6八飛	6二銀	6六玉	7五銀		
6六歩	5四角	同 角	5五金		
6五歩	7三銀	6七玉	6六歩		
7七銀	8四歩	5八玉			
6六銀	8五歩	まで83手にて先手の勝ち			
6四歩	同 銀				
6五歩	7三銀				
5五銀	6二飛				
4八玉	5二金				
3九玉	4二玉				
7七桂	8六歩				
同 歩	8二飛				
8五桂	3三桂				
6四歩	6二金引				
7三桂成	同 桂				
5四銀	同 歩				
7一銀	6七歩				
同 飛	5五桂				
6二銀成	同 金				
6三歩成	6七桂成				
6四角	3二玉				
4二金	2一玉				

# 30年の歩み

茨城県高等学校将棋連盟  
茨城県高等学校文化連盟将棋部会

# 「茨城県高等学校将棋連盟・茨城県高等学校文化連盟将棋部会」

## 30年の歩み

年	西暦	月日	大会・活動	開催地
昭50	1975	11月23日	茨城県高等学校将棋連盟発足	茨城県校長会館
昭51	1976	7月下旬	第12回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
昭52	1977	7月26日	第13回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸信用金庫駅前支店ホール
		8月19～20日	第13回全国高校将棋選手権大会、女子団体戦で結城二高全国制覇	長野県茅野市（昭和薬大）
昭53	1978	7月26日	第14回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸信用金庫駅前支店ホール
		8月19～20日	第14回全国高校将棋選手権大会	東京都新宿区（海洋会館）
昭54	1979	7月24日	第15回全国高校将棋選手権県代表決定戦	土浦市（社会教育センター）
		8月16～17日	第15回全国高校将棋選手権大会	東京都新宿区（海洋会館）
昭55	1980	7月25日	第16回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		8月15～16日	第16回全国高校将棋選手権大会	東京都
昭56	1981	7月24日	第17回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水城高
		10月14～15日	第17回全国高校将棋選手権大会	東京都（ホテル浦島）
昭57	1982	7月29日	第18回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水城高
			第18回全国高校将棋選手権大会	
昭58	1983	7月23日	第19回全国高校将棋選手権県代表決定戦	土浦市（亀城プラザ）
			第19回全国高校将棋選手権大会	
昭59	1984	7月23日	第20回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水城高
		8月17～18日	第20回全国高校将棋選手権大会、男子団体戦で土浦一高第3位	東京都（ホテル浦島）
昭60	1985	7月23日	第21回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水城高
			第21回全国高校将棋選手権大会、男子団体戦土浦一高準優勝	
昭61	1986	7月24日	第22回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水城高
			第22回全国高校将棋選手権大会	
昭62	1987	6月19日	茨城県高等学校文化連盟発足、将棋部会として加盟	
		7月23日	第23回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水城高
			第23回全国高校将棋選手権大会	
昭63	1988	7月8日	第24回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水城高
			第24回全国高校将棋選手権大会、女子個人戦で竹下（土浦日大）が全国制覇	
		9月20日	秋季大会兼第1回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	水戸市（教育会館）
		10月9日	第1回全国高校将棋竜王戦	福岡市（第一薬科大学）
平1	1989		第25回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水城高
		8月1日	夏季大会兼第2回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	石岡市民会館
			第25回全国高校将棋選手権大会	
		9月16日	第2回全国高校将棋竜王戦	福岡市（第一薬科大学）
平2	1990	6月12日	春季大会・第26回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
			夏季大会兼第3回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	石岡市民会館
			第26回全国高校将棋選手権大会	
		9月23日	第3回全国高校将棋竜王戦	福岡市（第一薬科大学）
平3	1991	6月12日	春季大会・第27回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		7月23日	夏季大会兼第4回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	石岡市民会館
		7月29～31日	第27回全国高校将棋選手権大会	浜松市（グランドホテル浜松）
		8月24日	第4回全国高校将棋竜王戦	福岡市（第一薬科大学）
		11月25日	第2回関東高校将棋選手権大会県代表決定戦	水城高
		第2回関東高校将棋選手権大会		

年	西暦	月日	大会・活動	開催地
平4	1992	6月10日	春季大会・第28回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		7月23日	夏季大会兼第5回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	石岡市民会館
		8月9～11日	第28回全国高校将棋選手権大会	広島市
		8月29日	第5回全国高校将棋竜王戦、徳永(水戸一)準優勝	福岡市(第一薬科大学)
		11月26日	秋季大会・第3回関東高校将棋選手権大会兼第1回全国高等学校文化連盟将棋選手権大会県代表決定戦	牛久市(エスカード・ホール)
		12月25日	第3回関東高校将棋選手権大会	石岡一高
		2月20～22日	第1回全国高等学校文化連盟将棋選手権大会、清水(茨城)第3位	滋賀県近江八幡国民休暇村
平5	1993	6月7日	春季大会・第29回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		7月22日	夏季大会兼第6回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	県民文化センター分館
		8月	第29回全国高校将棋選手権大会	東京
		8月	第6回全国高校将棋竜王戦	福岡市(第一薬科大学)
			秋季大会・第4回関東高校将棋選手権大会兼第2回全国高等学校文化連盟将棋選手権大会県代表決定戦	石岡市民会館
			第4回関東高校将棋選手権大会	栃木県
			第2回全国高等学校文化連盟将棋選手権大会	埼玉県
平6	1994	5月11日	第1回理事会	水城高
		5月25日	大会役員会	水城高
		6月10日	春季大会・第30回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		7月28日	夏季大会兼第7回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	県民文化センター分館
		8月2～4日	第30回全国高校将棋選手権大会	徳島グランドホテル偕楽園
		8月10日	第2回理事会(茨高将連20年の歩み樹墓決定)	水城高
		8月26～27日	第7回全国高校将棋竜王戦	福岡市(第一薬科大学)
		10月7日	第3回理事会	太田一高
		11月4日	「茨高将連20年の歩み」拡大樹墓委員会(以後、11月28日、12月12日、12月21日開催)	水城高
		11月17日	第5回関東・第3回全国新人大大会県代表決定戦	石岡市民会館
		12月25日	第5回関東高校将棋選手権大会	横浜市港高
		1月28～30日	第3回全国高文連将棋大会	
平7	1995	5月2日	平成7年度茨高将連総会・第1回理事会	水戸南高
		5月17日	第31回全国高校将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		6月16日	第8回全国高校将棋竜王戦県大会	県民文化センター分館
		8月5～6日	第19回全国総文祭(第31回全国高校将棋選手権大会)	新潟県分水町文化センター
		8月18～19日	第8回全国高校将棋竜王戦	福岡市(第一薬科大学)
		9月26日	平成7年度茨高将連理事会、「茨高将連20年の歩み」送付作業	水戸南高
		11月15日	第6回秋季大会	石岡市民会館
		12月23日	第6回関東高文連将棋大会	船橋市勤労市民センター
		1月24～26日	第4回全国高校将棋新人大大会	高知県教育会館高知城ホール
		平8	1996	5月1日
5月14日	全国高校将棋選手権県代表決定戦			水戸一高
6月7日	第9回全国高校将棋竜王戦県大会			県民文化センター分館
8月7～8日	第20回全国総文祭(第32回全国高校将棋選手権大会)			北海道江別市
8月22～23日	第9回全国高校将棋竜王戦			福岡市(第一薬科大学)
10月16日	平成8年度茨城県高等学校将棋連盟役員会			下館一高
11月19日	第7回茨城県高等学校秋季将棋大会			石岡市民会館
12月22日	第7回関東高文連将棋大会			東京(戸山高)
1月23～25日	第5回全国高校将棋新人大大会			長野県伊那市・伊那文化会館
2月5日	第2回理事会			下館一高

年	西暦	月日	大会・活動	開催地
平9	1997	5月1日	平成9年度茨高将連総会・第1回理事会、「茨城県高等学校将棋連盟」の名称を変更して、「茨城県高等学校文化連盟将棋部会」となる。(規約改正)	茨城高
		5月16日	第21回全国総文祭将棋選手権大会県大会	水戸一高
		6月10日	第10回全国高校将棋竜王戦県大会	県民文化センター分館
		8月9～10日	第21回全国総文祭(第33回全国高校将棋選手権大会)	奈良県香芝市
		8月23～24日	第10回全国高校将棋竜王戦	福岡県(第一薬科大学)
		10月17日	大会役員会	緑岡高
		11月12日	第8回関東大会・第6回全国新人大会県大会	石岡市民会館
		12月21日	第8回関東大会	埼玉県浦和市市民会館
		1月22～23日	第6回全国高校将棋新人大会	岩手県花巻市ホテル千秋閣
		2月3日	第2回理事会	下館一高
平10	1998	4月23日	平成10年度茨高文連将棋部会総会・第1回理事会	緑岡高
		5月12日	第22回全国総文祭将棋選手権大会県大会	水戸一高
		6月9日	第11回全国高校将棋竜王戦県大会	県民文化センター分館
		6月19日	第9回関東将棋大会準備委員会	緑岡高
		7月7日	平成10年度関東高文連将棋専門部第1回理事会	水戸一高
		8月9～10日	第22回全国総文祭(第34回全国高校将棋選手権大会)	鳥取県立倉吉文化会館
		8月22～23日	第11回全国高校将棋竜王戦	福岡県(第一薬科大学)
		10月14日	大会役員会	水戸農高
		11月9日	第9回関東大会・第7回全国新人大会県大会	石岡市民会館
		12月3日	第9回関東将棋大会準備委員会	緑岡高
		12月20日	第9回関東高文連将棋大会	水戸市民会館
		1月27～29日	第7回全国高校将棋新人大会	愛媛県松山市道後プリンスホテル
				2月3日
平11	1999	4月23日	平成11年度茨高文連将棋部会総会・第1回理事会	緑岡高
		5月12日	第23回全国高校総文祭将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		6月9日	第12回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	県民文化センター分館
		7月31～8月1日	第23回全国総文祭(第35回全国高校将棋選手権大会)	山形県天童市天童市民プラザ
		8月21～22日	第12回全国高校将棋竜王戦	福岡県(第一薬科大学)
		10月7日	秋季大会役員会	水戸農高
		11月12日	第10回関東大会・第8回全国新人大会県大会	石岡市民会館
		12月19日	第10回関東大会	群馬県高崎市中央公民館
		1月14～16日	第8回全国高文連新人大会	愛知県名古屋国際会議場
		2月2日	第2回理事会	緑岡高
平12	2000	4月20日	平成12年度茨高文連将棋部会総会・第1回理事会	太田一高
		5月10日	第24回全国高校総文祭将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		6月6日	第13回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	県民文化センター分館
		7月30日	関東高文連将棋専門部理事会	宇都宮市栃木県教育会館
		8月7～8日	第24回全国総文祭(第36回全国高校将棋選手権大会)	静岡県静岡商工会議所
		8月18～19日	第13回全国高校将棋竜王戦	福岡県(第一薬科大学)
		10月12日	秋季大会役員会	水戸農高
		11月6日	第11回関東大会・第9回全国新人大会県大会	石岡市民会館
		12月17日	第11回関東大会	宇都宮市栃木県教育会館
		2月8～10日	第9回全国高文連新人大会	大分県別府市鶴見園グランドホテル
		1月30日	第2回理事会	緑岡高
平13	2001	秋山会長：全国高文連将棋専門部会長に就任。また、全国事務局を本県で担当		
		4月19日	平成13年度茨高文連将棋部会総会・第1回理事会	緑岡高
		5月9日	第25回全国高校総文祭将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		6月8日	第14回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	県民文化センター分館
		8月4～5日	第25回全国総文祭(第37回全国高校将棋選手権大会)	北九州市西日本総合展示場新館

年	西暦	月日	大会・活動	開催地
平13	2001	8月23～24日	第14回全国高校将棋竜王戦	福岡県（第一経済大学）
		10月11日	秋季大会役員会	水戸農高
		11月9日	第12回関東大会・第10回全国新人大会県大会	石岡市民会館
		12月23～24日	第12回関東大会	神奈川県湯河原町杉の宿
		1月25～27日	第10回全国高文連新人大会	大阪市キャッスルホテル
		1月29日	第2回理事会	緑岡高
平14	2002	森山会長：全国高文連将棋専門部会長に就任。また、全国事務局を本県で担当		
		4月19日	平成14年度茨高文連将棋部会総会・第1回理事会	太田一高
		5月11日	第26回全国高校総文祭将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		6月5日	第15回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	県民文化センター分館
		8月8～9日	第26回全国総文祭（第38回全国高校将棋選手権大会）	神奈川県かながわ労働プラザ
		8月22～23日	第15回全国高校将棋竜王戦	福岡県（第一経済大学）
		10月9日	秋季大会役員会	水戸農高
		11月11日	第13回関東大会・第11回全国新人大会県大会	石岡市民会館
		12月15日	第13回関東大会	山梨県甲府一高
		2月6～8日	第11回全国高文連新人大会	千葉県東横イン・千葉ポートスクエア
		1月29日	第2回理事会	太田一高
		平15	2003	4月18日
5月11日	第27回全国高校総文祭将棋選手権県代表決定戦			水戸一高
6月7日	第16回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦			県民文化センター分館
8月4日	「30年のあゆみ」第1回編集委員会			水戸一高
8月9～10日	第27回全国総文祭（第39回全国高校将棋選手権大会）			福井県大野市大野有終会館
8月21～22日	第16回全国高校将棋竜王戦			福岡県（第一経済大学）
10月8日	秋季大会役員会			水戸農高
11月10日	第14回関東大会・第12回全国新人大会県大会			石岡市民会館
12月21日	第14回関東大会			千葉県柏市さわやかちば県民プラザ
2月13～15日	第12回全国高文連新人大会			広島県、広島プリンスホテル
1月28日	第2回理事会			日立一高
3月17日	「30年のあゆみ」第2回編集委員会			水戸一高
平16	2004	4月22日	平成16年度茨高文連将棋部会総会・第1回理事会	水戸農高
		5月9日	第18回全国高校総文祭将棋選手権県代表決定戦	水戸一高
		6月7日	第16回全国高校将棋竜王戦県代表決定戦	県民文化センター分館
		7月17日	関東高文連将棋専門部理事会	東京都日比谷高
		7月30～31日	第28回全国総文祭（第40回全国高校将棋選手権大会）	徳島県阿南市文化会館
		8月9日	「30年のあゆみ」第3回編集委員会	水戸一高
		8月18～20日	第17回全国高校将棋竜王戦	福岡県（第一経済大学）
		10月7日	秋季大会役員会	水戸一高
		11月9日	第15回関東大会・第13回全国新人大会県大会	石岡市民会館
		12月19日	第15回関東大会	東京都日比谷高
		1月26日	第2回理事会	水戸農高
		1月27～29日	第13回全国高文連新人大会	宮城県仙台市ホテルニュー水戸

## 歴代会長

歴代	在任期間(年度)	氏名
1	昭和50～52年	須田政明
2	昭和53～55年	岩下金司
3	昭和56～57年	海老沢昭
4	昭和58年	小林健一
5	昭和59～60年	雨宮和孝
6	昭和61年	園部公一
7	昭和62～63年	海老澤甲子
8	平成1～2年	鈴木健
9	平成3～4年	栗山作次郎
10	平成5～6年	高梨保彦
11	平成7～11年	矢須恵由
12	平成12～13年	秋山和衛
13	平成14年	森山勝一
14	平成15～16年	松崎武久



**茨城県高等学校文化連盟将棋部会規約**  
**関東地区高等学校文化連盟将棋専門部会会則**  
**全国高等学校文化連盟将棋部会会則**

# 茨城県高等学校文化連盟将棋部会規約

- 第1条 本部会は茨城県高等学校文化連盟将棋部会と称する。
- 第2条 本部会は事務局を理事会で指定した学校に置く。
- 第3条 本部会は茨城県高等学校文化連盟に所属し、教育の一環として、知能・人格の育成を目指し、将棋の普及と健全な発達を図り、あわせて指導者の育成、技術の向上に寄与することを目的とする。
- 第4条 本部会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- 1 茨城県高等学校生徒将棋大会の開催、関東大会および全国大会への代表選手の派遣
  - 2 指導者研修会ならびに教職員将棋大会の開催
  - 3 その他本部会の目的達成のための必要な事業
- 第5条 本部会は、茨城県内の高等学校将棋部員、将棋部担当教師およびこれに準じる者をもって組織する
- 第6条 本部会に次の役員をおく。
- |    |    |     |        |    |     |    |     |
|----|----|-----|--------|----|-----|----|-----|
| 会長 | 1名 | 副会長 | 2名     | 顧問 | 若干名 | 幹事 | 若干名 |
| 監査 | 2名 | 理事  | 各校1、2名 |    |     |    |     |
- 第7条 会長、副会長、幹事、監査は理事会で選出し、顧問は理事会で推薦する。理事は各校で1～2名選出する。事務局をおき、事務局長、事務局次長、書記、会計は、幹事の中から会長が委嘱する。
- 第8条 役員の仕事は下記のとおりとする。
- 1 会長は本部会を総括し、会務の推進にあたる。
  - 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。
  - 3 幹事は本部会の企画、運営にあたる。
  - 4 監査は会計監査をする。
  - 5 理事は各学校を代表する。
  - 6 事務局長、事務局次長は、事務を執行する。書記は理事会の議事、その他の記録をし、会合の連絡にあたる。
  - 7 会計は会計事務を担当する。
- 第9条 役員の仕事は1年とし、再任を妨げない。
- 第10条 本部会の運営費は必要に応じて徴収する。
- 第11条 理事会は必要に応じて開くことができる。
- 第12条 本部会の規約の改正は理事会の決議による。
- 第13条 本部会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第14条 本規約は昭和50年11月23日より施行する。

規約改正 平成9年5月1日（一部改正）

# 茨城県高等学校文化連盟将棋部会主催大会規定

平成6（1994）年5月

1. 部会主催の各種大会に参加できるのは、部会に加盟している高校の生徒とする。
2. 試合はトーナメント方式とする。ただし、一回戦で敗退したものは敗者戦を行い、大会参加者は一人最低2回以上試合をする。
3. 大会運営の関係上、県代表決定のブロックは32名以内とする。その他は、16名以内を1ブロックとする。ブロック名は強い順にA、B、Cとしていき、敗者戦はそれぞれ、D、E、Fとする。ただし、春の高校選手権大会は団体A、B、個人A、Bとし、敗者戦はそれぞれC、Dとする。この大会の個人戦Aへの申込み者は1校3名以内とする。
4. 実績を勘案して、シード制とすることもある。
5. 試合時間は、準決勝までは1時間以内とする。試合は40分を経過したのち、対局者にそれぞれ10分の持時間を与え、切れ負けとする。準決勝以上はそれぞれ20分の持時間を与え、使い切ったあとは1手30秒の秒読みとする。将棋指し直しは、初手より30秒以内の秒読みとする。入玉宣言法を採用し、先手の場合28点以上の持点、後手の場合27点以上の持点を勝ちとする。
6. 千日手などのルールは将棋連盟の規定とする。
7. その他、大会運営上の諸問題については、役員会で決める。
8. 大会開催通知は大会一ヶ月前に関係方面に通知する。
9. 大会に遅刻したものは失格もあり得る。
10. 対局の組み合わせは大会会場で番号を抽選して決める。（シード選手は別）
11. 同一校の選手が一回戦から対戦しないように留意する。すなわち、同一校の選手と同一ブロックなどに組み入れられるような番号を引いた時は、大きい番号の選手は次のブロックなどの最小番号の他校選手と入れ替える。
12. 選手は自分の全対局が終了するまで試合場を離れてはいけない。
13. 助言、声援など大会の進行上、差し障りがあると判断された場合、役員は注意し、甚だしい時は退場を命じる。
14. 引率教員は、会場、進行、審判、記録、会計などの係を分担し、大会の円滑な運営を図る。
15. 加盟校分担金は五千円とする。

## 入玉将棋の宣言法

### （宣言方法）

宣言しようとする側の手番で手を指さずに「宣言します」と言い、時計を止めて対局を停止させ、（秒読み中は、時間切れ前に宣言し対局を停止する。）その時の局面が、次の条件を満たしていれば宣言した側が、勝ちとなる。

〈条件1〉宣言側の玉が、敵陣三段目以内に入っている。

〈条件2〉宣言側が（大駒5点、小駒1点の計算で）

・先手の場合28点以上の持ち点がある。

・後手の場合27点以上の持ち点がある。

ただし、点数の対象となるのは玉を除く宣言側の持ち駒と敵陣三段目以内に存在する宣言側の駒のみである。

〈条件3〉宣言側の敵陣三段目以内の駒は、玉を除いて10以上存在する。

〈条件4〉宣言側の玉に王手がかかっている。（詰めろや必死であるということとは関係ない）

〈条件5〉宣言側の持ち時間が残っている。（切れ負けの場合）

以上一つでも条件がそろっていなかった場合、宣言した方が負けとなる。もちろん、宣言する前にどちらか片方が投了することは可能である。この規定は、どんな持ち時間制度でも適用する。

# 関東地区高等学校文化連盟将棋専門部会会則

## 第一章 総 則

(名称)

第1条 本部会は関東地区高等学校文化連盟将棋専門部会と称する。

(事務局)

第2条 本部会の事務局は部会長の指定する高等学校内に置く。

(目的)

第3条 本部会は関東地区内の高等学校における将棋部・将棋同好会の活動の健全な発展をはかることを目的とする。

(事業)

第4条 本部会は前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 関東地区高等学校文化連盟将棋大会の開催
- (2) その他、本部会に於いて必要と認める事業

(組織)

第5条 本部会は関東地区内の高等学校の将棋部・将棋同好会をもって組織する。

## 第二章 役 員

(役員)

第6条1 本部会は次の役員を置く。

- (1) 部会長 1名
- (2) 副部会長 1名
- (3) 委員長 1名
- (4) 副委員長 若干名
- (5) 委員 若干名
- (6) 会計 1名
- (7) 書記 1名

2 顧問を置くことができる。

(役員を選出)

第7条 役員を選出は、次の通りとする。

- (1) 関東地区高等学校文化連盟将棋大会の開催都県の部会長、副部会長が兼務する。
- (2) その他の役員については、部会長が推薦し、関東地区高等学校文化連盟将棋専門部理事会で承認を得る。

(役員職務)

第8条 役員職務は、次の通りとする。

- (1) 会長は本部会を代表し、部会の会務を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、会長不在の時はその職務を代行する。
- (3) 委員長以下の役員は役員会を構成し、本部会の運営に当たる。

(役員任期)

第9条1 役員任期は1年とする。

- 2 任期中途の役員交代は、前任者の残任期間を引き継ぐものとする。

### 第三章 会 議

(会議)

第10条1 本部会に次の会議を置き、必要に応じて会長がこれを招集する。

- (1) 役員会
- (2) 理事会

- 2 議決は出席者の過半数をもって決する。

(役員会及び理事会)

第11条 役員会及び理事会は、次の事項を審議決定する。

- (1) 役員会は、理事会に提出する原案の作成及びその他の重要事項
- (2) 理事会は、本部会の運営、執行に関する事項

### 第四章 会 計

(経費)

第12条 本部会の経費は、関東地区の高等学校文化連盟からの分担金及び大会参加費その他の収入をもってあてる。

(予算・決算)

第13条 本部会の収支予算は、理事会の議決により定め、収支決算は、会計年度終了後監査を経て、次の理事会で承認を得なければならない。

(会計年度)

第14条 本部会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

### 第五章 雑 則

第15条 この会則は、理事会の議決によらなければ変更することができない。

申し合わせ事項

理事は、各都県委員長をもって構成する。

付則

第16条 この会則は平成16年4月1日より施行する。

## 関東高等学校文化連盟将棋専門部 対局規定

### 1. 【手合い】

全対局平手戦にて行う。

### 2. 【先手・後手の決定】

振り駒とする。

### 3. 【対局時計】

対局には対局時計を用い、その位置は後手が決めることが出来る。時計は指した方の手で押さなければならない。指さない方の手で押した場合、審判長の判断で失格になる場合がある。

### 4. 【持ち時間】

主催都県の実施要項に則る。

### 5. 【競技方法】

主催都県の実施要項に則る。

### 6. 【反則】

対戦相手に以下の行為があった場合、反則勝ちとなる。該当者は時計を止め、速やかに審判長に申し出ること。

(1) 対局開始後、遅刻者の持ち時間が切れる

(2) 対局中、助言や批評を受ける

(3) 禁じ手（二歩、打ち歩詰め、行き所のない駒、成れない駒の成り、王手放置等）

(4) 二手連続の着手

(5) 待った（駒から手を離したら、着手は変更出来ない）

・反則の指摘は対局者のみが行うことが出来る（観戦者はしてはいけない）。

・反則の指摘は、指した直後でなくても、盤面に残っている場合（二歩、行き所のない駒等）は行うことが出来る。指摘した後直ちに審判長に申し出ること。

・投了後の反則の指摘は認めない（投了の優先）。

但し公式棋譜採譜が行われたときは、次の対局が始まる前までに限り申告を認める。ここで公式棋譜とは、大会実行委員が採譜したものを言う。

### 7. 【千日手】

同一局面が4回発生した場合、千日手となる。時計を止めて、速やかに審判長に申し出ること。

同一対局で1回目の場合と2回目の場合で対応を以下の様に変える。

1回目：残り時間はそのまま、先後を交代して即座に指し直す。

2回目：抽選により、勝者を決める。抽選方法は審判長に一任する。

### 8. 【持将棋】

双方入玉模様となった場合、審判長の判断で持将棋が成立する。判定は27点法（大駒5点、小駒1点）で、ポイントの多い方を勝ちとする。但し、同点の場合は後手の勝ちとする。

### 9. 【審判長による勝負の判定】

双方入玉模様となっていなくても、対局時間が著しく経過した場合、審判長は勝負の判定をすることが出来る。

### 10. 【マナー】

以下の行為は慎むこと。

(1) 対戦相手の迷惑となる様な行為（対局中の写真撮影は対局開始5分以内で行う）

(2) 対局場内での飲食

(3) 対局場内で騒がしくすること

(4) 対局者の迷惑となる様な行為（至近で観戦を続けること、対局者に聞こえる様な声で話すこと等）

### 11. 【その他】

問題が生じた場合は、時計を止めて対局を中断し、速やかに審判長に申し出て、判定を一任すること。審判長はトラブルが生じた場合の裁定の全権限を持つ。審判長の他に審判及び記録係等を置く場合は、その任務と権限を予め明示しておくこと。

# 社団法人全国高等学校文化連盟将棋専門部 会則

## 第1章 総則

### 〈名称〉

第1条 本部会は、社団法人全国高等学校文化連盟将棋専門部と称する。

第2条 本部会の事務局を部会長所在の都道府県に置く。

### 〈目的〉

第3条 本部会は、社団法人全国高等学校文化連盟定款第3条に則り、高等学校において将棋を通じて生徒の人格形成をはかり、併せて技術の向上と将棋の発展と振興に資することを目的とする。

### 〈事業〉

第4条 本部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 全国高等学校総合文化祭将棋部門（全国高等学校将棋選手権大会を兼ねる）と全国高等学校将棋新人大会およびその予選にあたる各都道府県大会
  - (2) その他、本部会において必要と認める事業
- 2 事業のうち、大会等に関しては、全国高等学校文化連盟将棋専門部会（以下専門部会と略す）の議を経て、規約あるいは要項を定める。

### 〈組織〉

第5条 本部会は、各都道府県高等学校文化連盟（高芸連等）将棋部会および各都道府県高等学校将棋連盟等の将棋団体に加盟する各高等学校の将棋部（研究会、同好会等）をもって組織する。

- 2 各都道府県の将棋団体（部、研究会、同好会）は、それぞれの地域ごとに連合体を組織することができる。

## 第2章 役員

### 〈役員〉

第6条 本部会に次の役員を置く。

- |             |     |
|-------------|-----|
| (1) 部会長     | 1名  |
| (2) 副部会長    | 2名  |
| (3) 理事      | 47名 |
| (4) 事務局長    | 1名  |
| (5) 事務局次長   | 若干名 |
| (6) 事務局役員   | 若干名 |
| (7) 会計      | 1名  |
| (8) 都道府県代表者 | 47名 |
| (9) 会計監査    | 1名  |

### 〈役員の出選〉

第7条 役員の選出は次の通りとする。

- (1) 部会長は、将棋専門部会の推薦に基づき、全国高等学校文化連盟会長が委嘱する。
  - (2) 副会長は、将棋専門部会の推薦に基づき、全国高等学校文化連盟会長が委嘱する。
  - (3) 理事は、第5条に掲げる各都道府県高等学校文化連盟（高芸連等）将棋専門部会長とする。
  - (4) 事務局長、事務局次長と事務局役員は、部会長が委嘱する。
  - (5) 都道府県代表者は、第5条に掲げる各都道府県高等学校組織の事務担当者の中から1名をもってあてる。
  - (6) 会計監査は、全国高文連将棋専門部の推薦に基づき、部会長が委嘱する。原則として、前会計に委嘱する。
- 2 役員の重任は妨げない。

〈役員の仕事〉

第8条 役員の職務は次の通りとする。

- (1) 部会長は本部会を代表し、部会の会務を統括する。
- (2) 副部会長は部会長を補佐し、部会長不在の時はその職務を代行する。
- (3) 理事と都道府県代表者は、専門部会に出席し、本部会の会務を審議する。
- (6) 事務局長、事務局次長は本部会の会務にあたる。
- (7) 会計は本部会の会計にあたる。
- (8) 会計監査は本部会の会計を監査する。

〈役員の仕事〉

第9条 役員の任期は、部会長、事務局長、事務局次長、会計、会計監査は2年、副部会長、理事、事務局役員、都道府県代表者は1年とする。但し、再任を妨げない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、必要により補充する。但し、任期は前任者の残任期間とする。
- 3 その他の詳細については別途全国高等学校文化連盟将棋専門部役員規定に定める。

### 第3章 会議

〈会議〉

第10条 本部会に次の会議を置き、部会長が必要に応じてこれを招集する。

- (1) 全国高等学校文化連盟将棋専門部会（専門部会）
  - (2) その他必要と認められる会議
- 2 会議の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長がこれを決定する。
  - 3 会議は構成員の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。やむを得ない理由のため、会議に出席できない構成員は、他の構成員を代理人として評決を委任することができる。

〈専門部会〉

第11条 最高議決機関である全国高等学校文化連盟将棋専門部会は、原則として、全国高等学校総合文化祭将棋部門開催時と全国高等学校将棋新人大会開催時の年2回開催し、次の事項を審議決定する。



- (1) 部会長から委任された事項
  - (2) 本部会の運営・執行に関する事項
  - (3) その他、重要な事項
- 2 専門部会の出席者は、原則として、第6条に掲げた役員全員とする。
  - 3 専門部会の議長は部会長とする。

#### 第4章 会計

##### 〈経費〉

第12条 本部会の経費は、全国高等学校文化連盟の予算、部会費、寄付金及び協賛金、その他の収入をもってあてる。

##### 〈予算・決算〉

第13条 本部会の収支予算は、専門部会により定め、会計年度終了後、監査を経て次の専門部会で承認を得なければならない。

##### 〈会計年度〉

第14条 本部会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

##### 〈会計処理〉

第15条 本部会の会計経理は、専門部会を経て会計が行う。

#### 第5章 事務局

##### 〈事務局〉

第16条 本部会の事務を処理するため、事務局を置く。

##### 〈緊急を要する案件の処理〉

第17条 緊急を要する案件においては、部会長、事務局長、事務局次長及び事務局役員で、合議し、処理することができる。ただし、この場合においては、専門部会の事後承認を得なければならない。

#### 第6章 雑則

##### 〈会則の変更〉

第18条 この会則の変更には、専門部会の承認を経なければならない。

##### 〈会則の施行〉

第19条 本部会の会則の施行についての必要な事項は、専門部会を経て別に定める。

#### 付則

- 1 この会則は昭和63年6月1日から施行する。
- 2 この会則は平成3年12月9日から施行する。
- 3 この会則は平成6年8月5日から施行する。
- 4 この会則は平成15年8月9日から施行する。

## 全国高等学校文化連盟将棋専門部 対局規定

\*本規定は、日本将棋連盟の対局規定に準じて、以下のように定める。

### (1)〈手合い〉

全対局、平手戦にて行う。

### (2)〈先手・後手の決定〉

振り駒とする。団体戦は主将が振り、交互に先後となる。また団体戦は申し込み時の同将同士  
の対戦とする（オーダーは変更できない）。

### (3)〈対局時計〉

対局には対局時計を用い、その位置は後手番が決めることができる。時計は指した方の手で押  
さなければならない。

### (4)〈持ち時間〉

持ち時間は30分とし、使い切ると1手30秒の秒読みとする。

### (5)〈反則〉

対戦相手に以下の行為があった場合、反則勝ちとなる。該当者は時計を止め、すみやかに審判  
長に申し出ること。

ア 対局開始後、遅刻者の時間が切れる遅刻

イ 対局中、対戦相手以外の助言、批評を受けること。

ウ 禁じ手（二歩、打歩詰め、行き所のない駒、成れない駒の成りなど）

エ 二手連続の着手

オ 待った（駒から手を離したら、着手を変更できない）

・反則の指摘は対局者のみが行うことができる（観戦者はしてはいけない）。

・反則の指摘は、指した直後でなくても、盤面に残っている場合（二歩、行き所のない駒な  
ど）は行うことができる。指摘した後、直ちに審判長に申し出ること。

・投了後の反則の指摘は認めない（投了の優先）。

### (6)〈千日手〉

同一局面が4回発生した場合、千日手となる。時計を止めてすみやかに審判長に申し出ること。  
同じ対局で2回以上千日手となった場合は、以下のように対処する。

1回目：残り時間はそのまま、先後を交代して指し直す。

2回目：抽選により、勝者を定める。抽選方法は審判長に一任する。

### (7)〈持将棋〉

双方入玉模様となった場合、審判長の判断で持将棋が成立する。27点法（大駒5点、小駒1点）  
で、ポイントの多い方を勝ちとする。ただし、同点の場合は後手番の勝ちとする。

### (8)〈審判長による勝負の判定〉

双方入玉模様となっていなくても、対戦時間が著しく経過した場合、審判長は勝負の判定をす  
ることができる。

(9)〈マナー〉

以下の行為は慎むこと。

- ア 対戦相手の迷惑となるような行為
- イ 対局場内での飲食
- ウ 対局場内で騒がしくすること
- エ 対局者の迷惑となるような行為
- オ 対局時計を指した手と逆の手で押すこと

(10)〈その他〉

問題が生じた場合は、時計を止めて対局を中断し、すみやかに審判長に申し出て、審判長に一任すること。審判長はトラブルが生じた場合の裁定の全権限を持つ。審判長の他に審判及び記録係などを置く場合は、その任務と権限をあらかじめ明示しておくこと。

\* 審判の権限

- ・対局者から反則の指摘があったとき、それを判定すること。
- ・マナーが悪い生徒がいた場合、注意し、直らないときは負けを宣告すること。
- ・持将棋や千日手の判定を行うこと。

この規定は、平成13年4月1日から実効とする。

## 〈付記事項：切れ負け将棋における千日手と持将棋の扱いについて〉

### (1) 〈千日手〉

同一局面が4回発生した場合、千日手となる。時計を止めて速やかに審判長に申し出ること。残り時間はそのまま、先後交代して差し直す。同じ対局で2回以上千日手となった場合も同様に差し直しを繰り返す。

### (2) 〈持将棋〉

「入玉将棋の宣言法」を採用する。

#### ●入玉将棋の宣言法

現在のアマチュア大会における入玉将棋の矛盾（駒数判定の時期の難しさ、特に切れ負け将棋との関連）を少しでも解消するための方法として採用する。

##### 〈宣言方法〉

宣言しようとする側の手番で手を指さずに「宣言します」といい、時計を止めて対局を停止させ（秒読み中は、時間切れ前に宣言し、対局を停止する）、その時の局面が、次の条件を全て満たしていれば、宣言した側が勝ちとなる。

〈条件1〉宣言側の玉が、敵陣三段目以内に入っている。

〈条件2〉宣言側が（大駒5点、小駒1点の計算で）

- ・先手の場合、28点以上の持ち点がある。
- ・後手の場合、27点以上の持ち点がある。

ただし、点数の対象となるのは、玉を除く宣言側の持ち駒と敵陣三段目以内に存在する宣言側の駒のみである。

〈条件3〉宣言側の敵陣三段目以外の駒は、玉を除いて10枚以上存在する。

〈条件4〉宣言側の玉に、王手がかかっていない（詰めろや必死であるということとは関係ない）。

〈条件5〉宣言側の持ち時間が残っている（切れ負けの場合）。

以上の内一つでも条件がそろっていなかった場合、宣言した方が負けとなる（したがって、宣言をもって対局が終わる）。もちろん宣言する前にどちらか片方が投了することは可能である。この規定はどんな持ち時間制度でも適用可能である。

## 「売家と唐様で書く…」か！ ——編集後記にかえて

「売家（うりいえ）と唐様（からよう）で書く三代目」は江戸期の川柳で、創立の素志を忘れて浮華を追って自滅する三代目を皮肉ったものである。中国では「井戸を掘った人を忘れるな」とよく口にし、若い世代を戒めている。

茨城県高文連将棋部会（もとの県高校将棋連盟）の井戸掘り役だったのは、須田正明先生（水戸三高校長）、宮田謙次先生（常北高校教諭）、天貝茂樹先生（筑波高校教諭）である。三人を語る現役はおそらく筆者一人であろうから、敢てこの三人にふれておきたい。

須田先生は創立時の会長（当時常北高校長）である。東大国史科を出た碩学で、ドイツ語が堪能で、東大在学の一時期将棋のプロを目指された。天貝先生は東京理科大出身の数学の先生で、同大学将棋部創設者の一人として知られ、県内アマチュア将棋界では今日でも氏の徳を慕う人が多い。宮田先生は大阪大学工学部を出て日本史を担当した変り種で、退職後は「常北町史」の編纂に力を尽くされ、常北町（城里町）市街隣接地にごみ焼却場が計画された時は猛然反対してこれを撤回させ、常北町石塚地区の人々を今日のダイオキシン被害からまぬかせるに力があつたが、早世された。

筆者は、須田先生とは簡単な詰め将棋程度の話しかしたことはないが、宮田先生とは数百局をこなし、天貝先生とは県教職員将棋大会で2局さした記憶がある。この三人は無類の将棋好きというほか、そろって硬骨漢で、エピソードには事欠かないがここではのべない。この三人を含む多くの人の言葉に尽くせない献身があつて、今日の将棋部会があることは、長く心に銘記されるべきである。

筆者は創立時の人々から事務局を継承する形で高校将棋に関係した。任にあつたときは、公正と衆議を重んじたつもりだが、将棋人には強い個性を持つ人がおり、調整に心労することもあつた。

近年、若い青木陸人先生（日立一高教諭）と藤崎正輝先生（水戸農高教諭）が全国高等学校文化連盟将棋部会の事務局をそつなくつとめられたのを見て、隔世の感を禁じえなかつた。もちろん、全国高文連将棋部会長の要職を快く引き受けてくださった秋山和衛先生（太田一高校長）、森山勝一先生（同）のご助力も大きかつたと思う。

縁あつて将棋部会に所属した私たちの課題は、将棋という文化を守り・育て、将棋を通して人間の陶冶につとめるにあると思われる。文化の継承という面からみると、小学生などへの普及が急務であり、これなどは高校生将棋部員などのボランティアに期待すること大である。

グローバルな視点では、諸外国への将棋の普及がのぞまれている。上海には将棋人口が数万人いるといわれるが、漢字文化圏である東アジアに日本将棋がどれだけ根づくか、若い人たちの努力に待つしかない。インドルーツといわれる日本将棋はチェスや象棋（シャンチー、中国将棋）と類似性があり、コンピューターゲーム化は最も進んでいるから、日本将棋の可能性は大変大きい。「冬のソナタ」で韓流という文化の流れができた。いまアジアはホットスポットで、世界の眼が注がれている。将棋だけでなく日本文化も、「日流」として大きくはばたいたい欲しいものである。

本記念誌編集には藤崎先生はじめ県高文連将棋部会全教員が携わつた。労苦に深甚の謝意を表したい。

（閑居人）

**茨城県高等学校将棋 30年のあゆみ**

2005年3月1日発行

発行者 茨城県高等学校文化連盟将棋部会  
事務局 茨城県立日立第一高等学校内  
日立市若葉町3-15-1  
TEL 0294 (22) 6488

印刷所 有限会社川田プリント  
水戸市上水戸4-6-53  
TEL 029 (253) 5551